

日向市人口ビジョン・総合戦略策定のための
市民アンケート調査 報告書

平成27年8月

日向市

目次

1. 調査の目的.....	1
2. 調査の方法.....	1
3. 調査票回収の状況.....	1
第1章 市民アンケート調査の結果.....	2
1. 回答者の概要.....	2
(1) 性別・年代別.....	2
(2) 家族構成.....	2
(3) 職業.....	3
(4) 居住地区.....	3
2. 調査結果.....	4
(1) 日向市での生活について.....	4
(2) 日向市の印象・イメージについて.....	7
(3) 行政活動の評価(満足度・ニーズ)について.....	8
(4) 市民の地域づくりへの参加について.....	11
(5) 行財政改革のあり方について.....	14
(6) 結婚・子育てについて.....	15
第2章 高校生アンケート調査の結果.....	24
1. 調査対象.....	24
2. 調査結果.....	24
(1) 通学の状況.....	24
(2) 日向市への愛着.....	24
(3) 卒業後の予定.....	25
(4) 将来、日向市に住みたくない理由.....	27
(5) 将来、希望する仕事・職種.....	28
(6) 将来どのようなまちに住みたいか.....	29

第3章 転出・転入者アンケート調査の結果.....	31
I 転出者アンケート.....	31
1. 調査対象.....	31
2. 回答者の概要.....	31
(1) 性別・年代別.....	31
(2) 職業別.....	31
(3) 家族の構成.....	32
(4) 転出の理由.....	32
3. 調査結果.....	34
(1) 日向市へのUターンについて.....	34
(2) 日向市が住みよいまちになるために取り組むべき課題.....	36
(3) 日向市へのイメージ.....	38
(4) 日向市の魅力.....	39
(5) 日向市に住んでいるときに不満だったこと.....	40
II 転入者アンケート.....	42
1. 調査対象.....	42
2. 回答者の概要.....	42
(1) 性別・年代別.....	42
(2) 職業別.....	42
(3) 家族構成.....	43
(4) 転入の理由.....	43
3. 調査結果.....	44
(1) 日向市への転入について.....	44
(2) 日向市が住みよいまちになるために取り組むべき課題.....	45
(3) 日向市のイメージ.....	46
(4) 日向市のまちづくりに期待すること.....	47

1. 調査の目的

国立社会保障・人口問題研究所の推計(平成25年)によると、本市の人口は、63,000人から平成52年(2040年)には、51,000人に減少(減少率約20%)すると予測されている。

本市が将来に向けて発展していくためには、人口減少にブレーキをかける対策を早急に講じる必要がある。

このようなことから、国の地方創生政策と連携して、平成27年度中に『日向市人口ビジョン・総合戦略(仮称)』を策定し、人口減少施策を構築することとしている。

『日向市人口ビジョン・総合戦略(仮称)』の策定に市民・市内高校生等の意向を反映するためアンケート調査を実施する。

2. 調査の方法

(1) 市民アンケート

対象:市内在住の18歳以上の男女2,000人(住民基本台帳から無作為抽出)

期間:平成27年6月1日～平成27年6月19日

方法:郵送法

(2) 高校生アンケート

対象:市内の高校(3校)に通学する高校3年生

期間:平成27年6月

方法:学校に配布と回収を依頼

(3) 日向市へ転出及び日向市から転入した方へのアンケート

対象:この1年間に日向市へ転出した方200人

この1年間に日向市から転入した方200人

期間:平成27年6月1日～平成27年6月19日

方法:郵送法

3. 調査票回収の状況

(単位:人・%)

	①対象者数	②回答者数	回答率 (②÷①×100)
市民アンケート	2,000	753	37.7%
高校生アンケート	526	526	100.0%
転出者アンケート	200	53	26.5%
転入者アンケート	200	47	23.5%

第1章 市民アンケート調査の結果

1. 回答者の概要

(1) 性別・年代別 ※問1、問2

表1-1 性別・年代
(単位:人、%)

	男性	女性	男女計
29歳以下	48 16.6%	81 18.2%	129 17.6%
30～39歳	63 21.7%	106 23.8%	169 23.0%
40～49歳	48 16.6%	86 19.3%	134 18.2%
50～59歳	57 19.7%	90 20.2%	147 20.0%
60～69歳	69 23.8%	78 17.5%	147 20.0%
70歳以上	5 1.7%	4 0.9%	9 1.2%
年齢計	290 100.0%	445 100.0%	735 100.0%

※無回答を除く

(2) 家族構成 ※問3

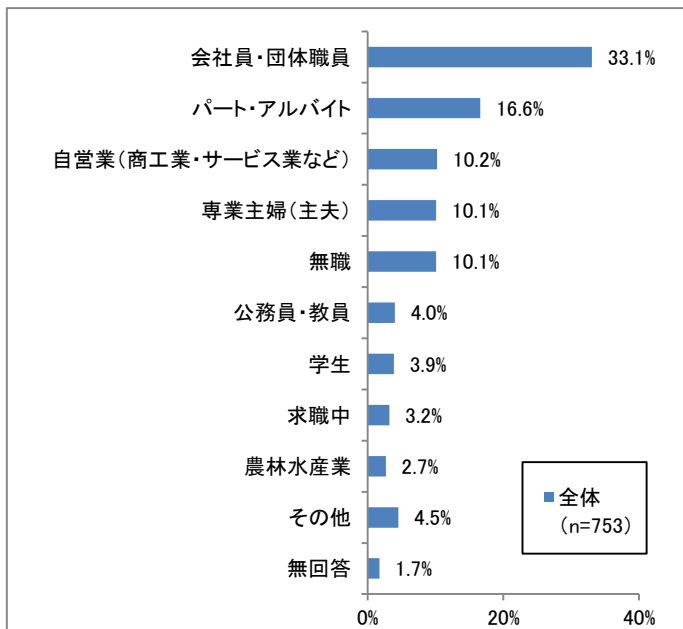
表1-2 家族構成
(単位:人、%)

	ひとり暮らし	夫婦のみ	2世代同居 (親と子)	3世代が同居 (親と子と孫)	その他 (兄弟姉妹・4世代等)
29歳以下	9 14.5%	9 5.8%	91 21.6%	20 25.6%	1 5.0%
30～39歳	7 11.3%	18 11.6%	116 27.5%	19 24.4%	7 35.0%
40～49歳	8 12.9%	14 9.0%	92 21.8%	16 20.5%	2 10.0%
50～59歳	16 25.8%	39 25.2%	77 18.2%	12 15.4%	4 20.0%
60～69歳	22 35.5%	70 45.2%	42 10.0%	11 14.1%	6 30.0%
70歳以上	0 0.0%	5 3.2%	4 0.9%	0 0.0%	0 0.0%
年齢計	62 100.0%	155 100.0%	422 100.0%	78 100.0%	20 100.0%

※無回答を除く

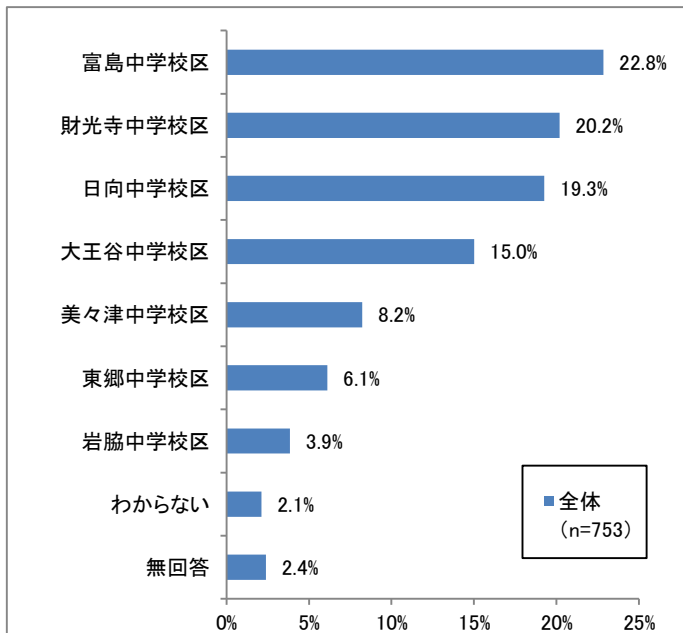
(3)職業 ※問4

図1-3 職業



(4)居住地区 ※問5

図1-4 居住地区



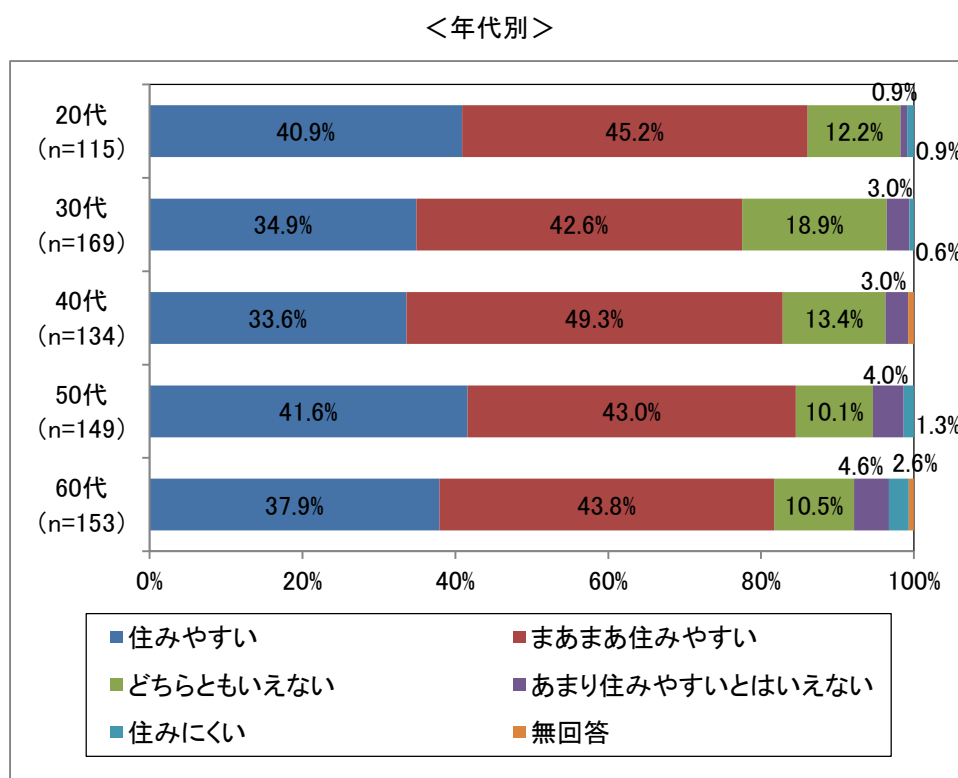
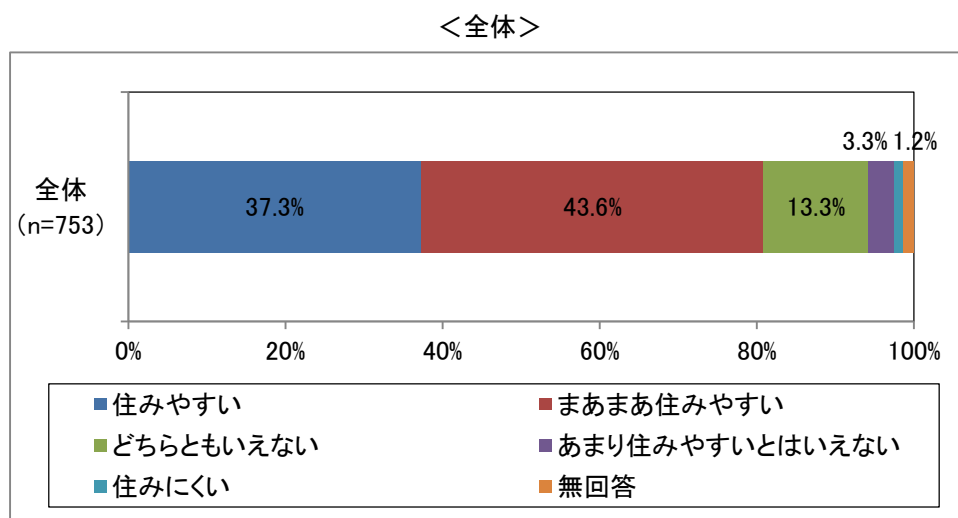
2. 調査結果

(1) 日向市での生活について

① 日向市は住みやすいか、住みにくい ※問7

- ・「住みやすい」「まあまあ住みやすい」を合わせると80.9%となっている。年代別でも大きな差異はない。

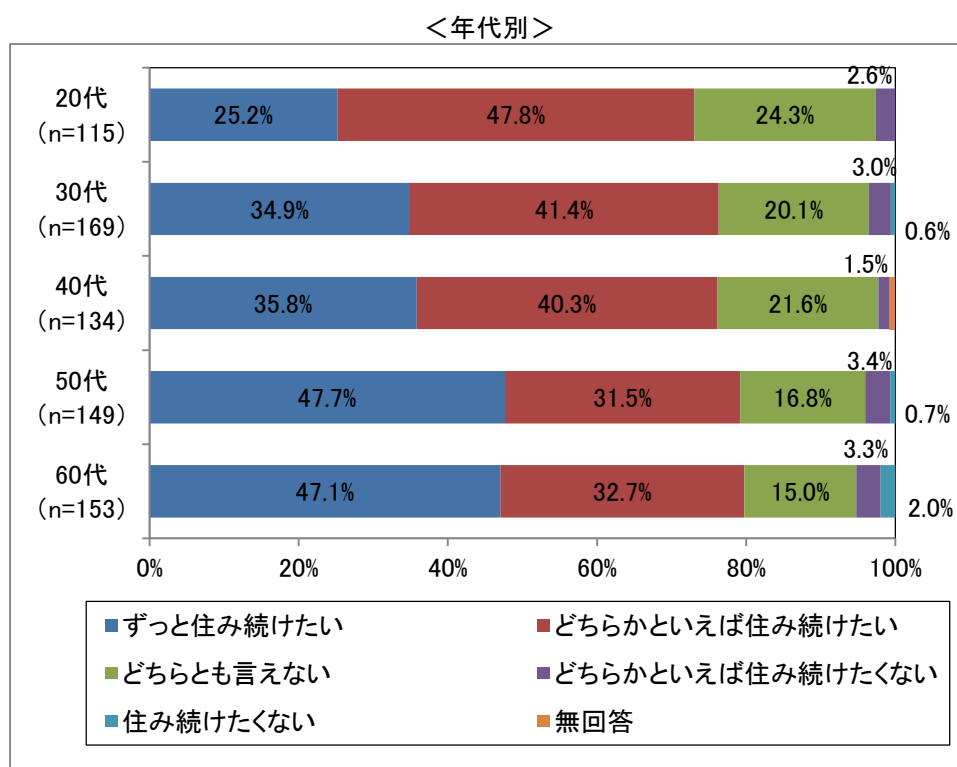
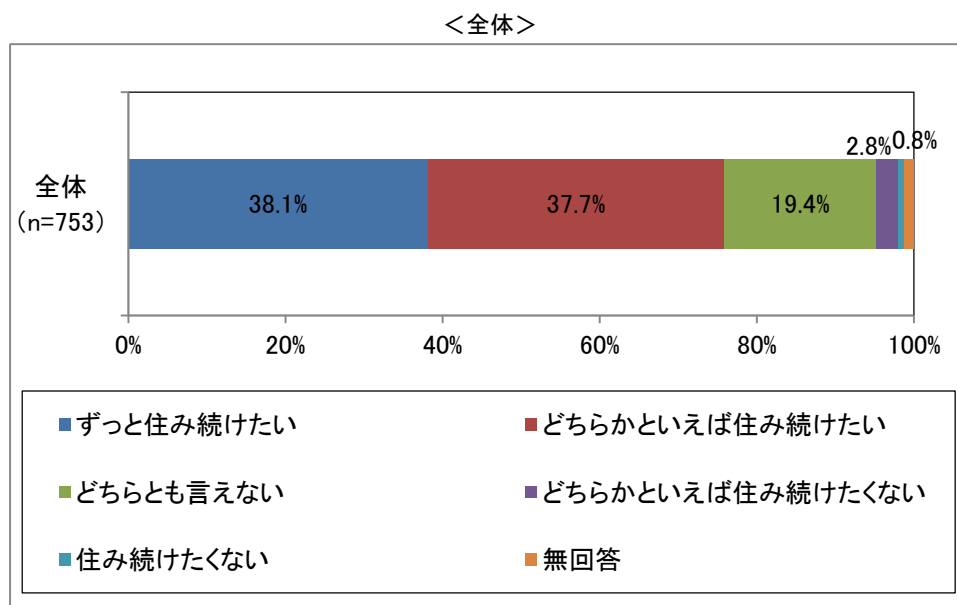
図2-1-1 日向市の住みやすさ



②日向市に今後も住みたいか ※問8

・今後も日向市に「ずっと住みたい」「どちらかといえば住みたい」を合わせると75.8%である。年代別でも大きな差異はない。

図2-1-2 日向市に今後も住みたいか



③日向市への愛着・誇りについて ※問9、10

・日向市に「あまり愛着や誇りを感じない」「愛着や誇りを感じない」の割合は 8.9%で、その理由の第1位は「住むのに不便なことが多いから」(58.2%)となっている。

図2-1-3 日向市への愛着・誇り

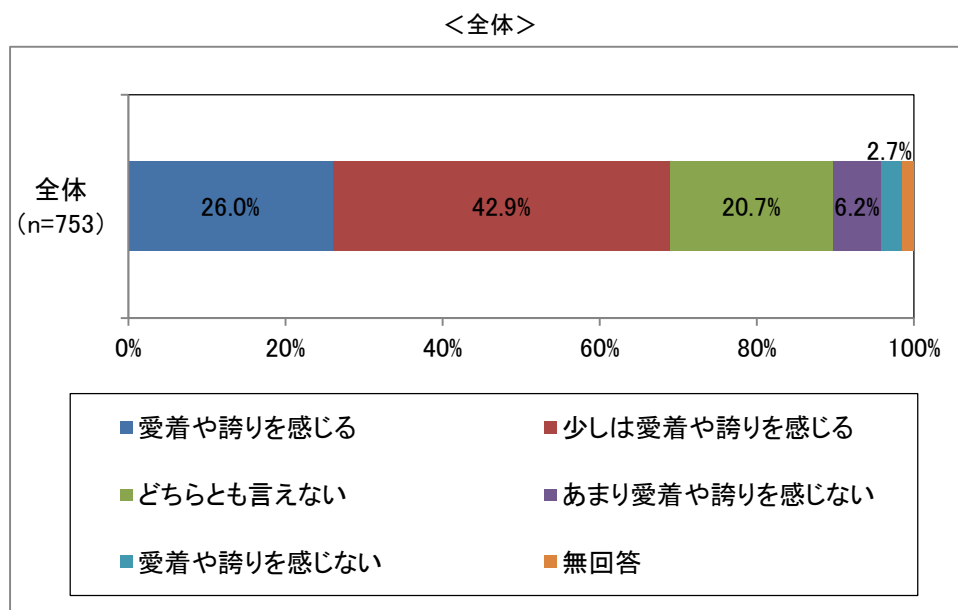
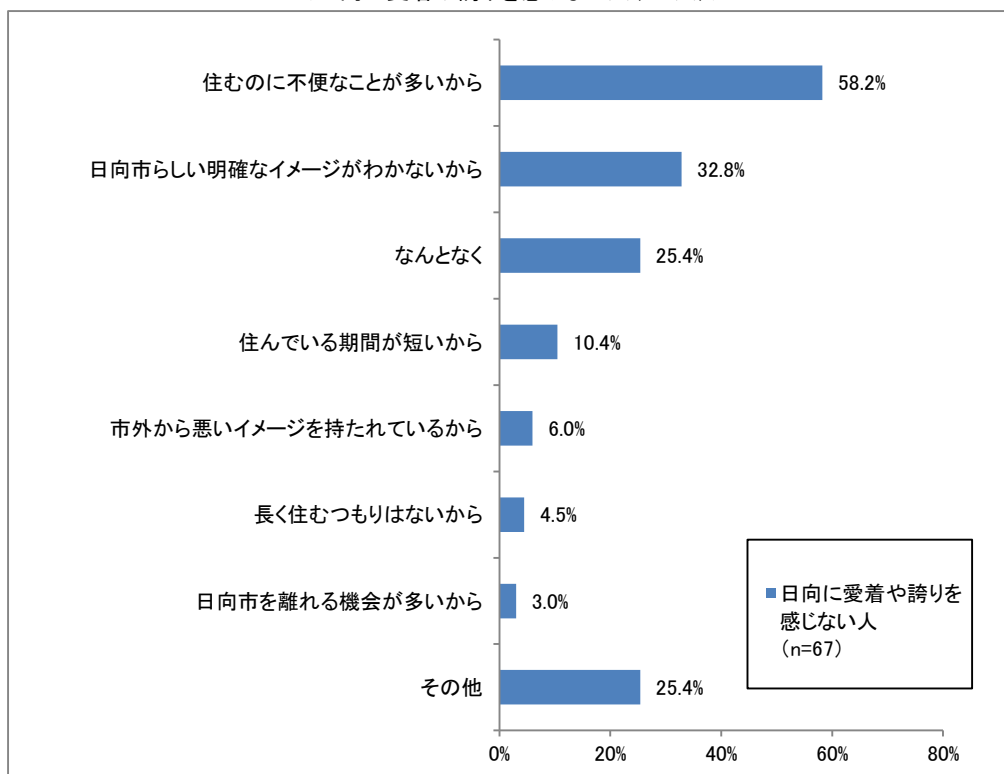


図2-1-4 日向市に愛着や誇りを感じない理由

<日向に愛着や誇りを感じない人(67人)>



(2) 日向市の印象・イメージについて ※問12

・日向市の「プラス(そう思う・ややそう思う)」の印象・イメージの上位3項目:

「緑が多く自然環境が残っている」…83.3%

「事件や事故が少なく安心して暮らせる」…55.5%

「資源リサイクルが進んでいる」…54.1%

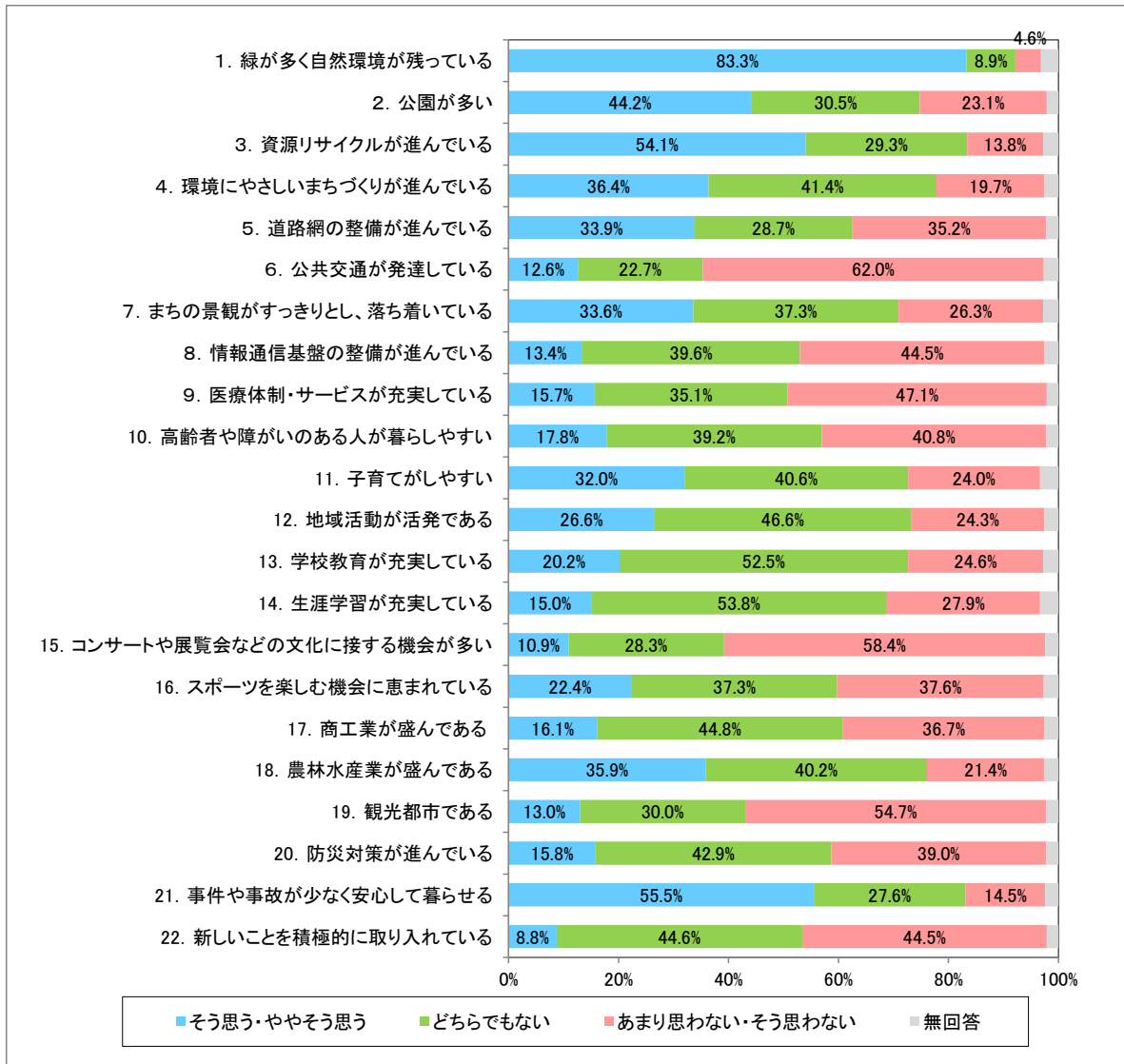
・日向市の「マイナス(あまり思わない・そう思わない)」の印象・イメージの上位3項目:

「公共交通が発達している」…62.0%

「コンサートや展覧会などの文化に接する機会が多い」…58.4%

「観光都市である」…54.7%

図2-2-1 日向市の印象・イメージ
<全体>



(3) 行政活動の評価について

①満足度の状況 ※問13

・満足度の高い上位3項目:

「買い物・外食等の日常生活の利便性」…23.4%

「防犯や交通安全など安全で安心なまちづくり」…22.8%

「自然環境の保全・保護」…21.5%

・不満度の高い上位3項目:

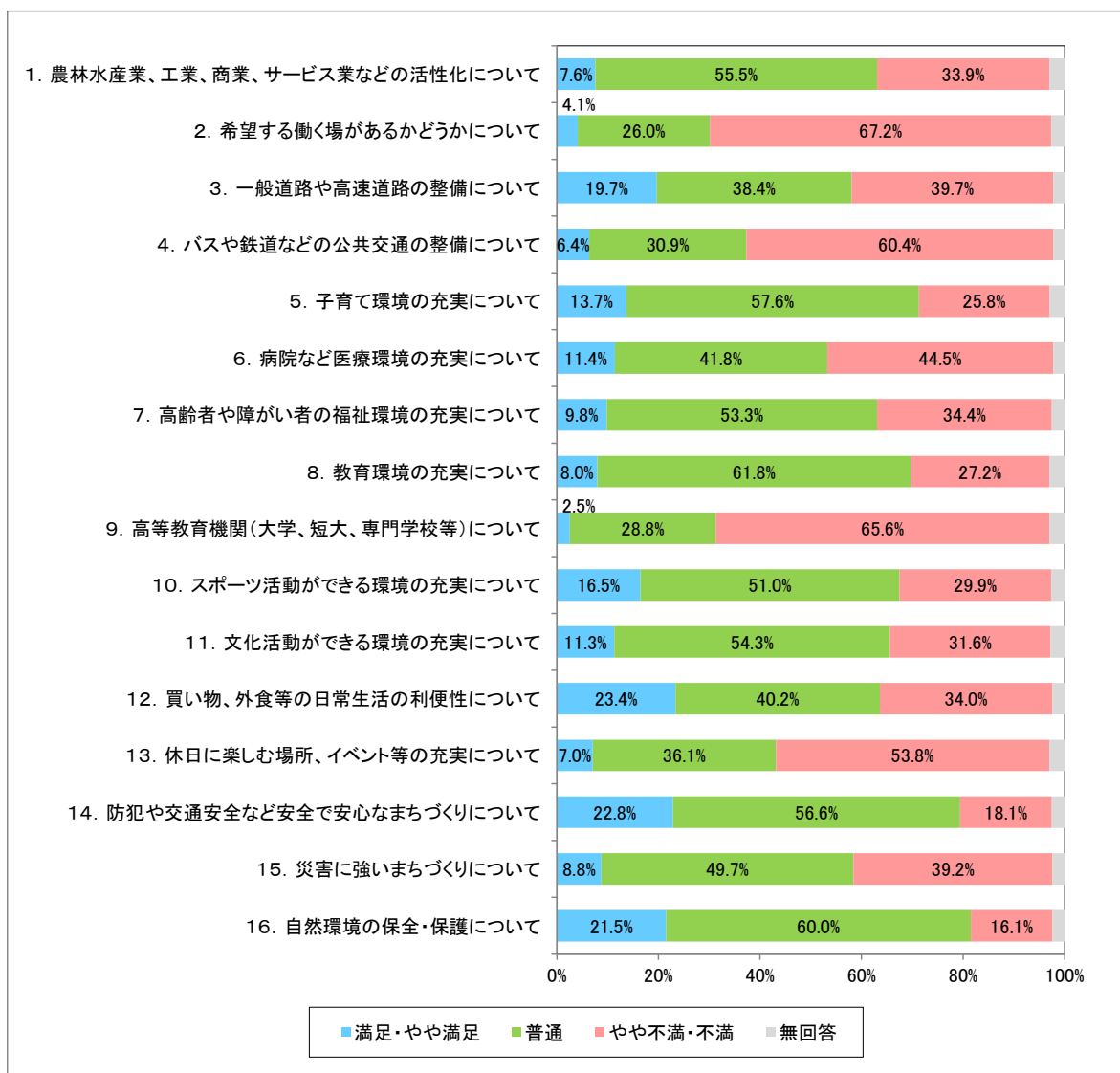
「希望する働く場があるか」…67.2%

「高等教育機関(大学、短大、専門学校等)」…65.6%

「休日に楽しむ場所、イベント等の充実」…53.8%

図2-3-1 満足度の状況

<全体>



②ニーズの状況 ※問14

・ニーズの高い上位3項目：

「希望する働く場がある」…87.0%

「病院など医療環境の充実」…82.9%

「災害に強いまちづくり」…82.1%

・ニーズの低い上位3項目：

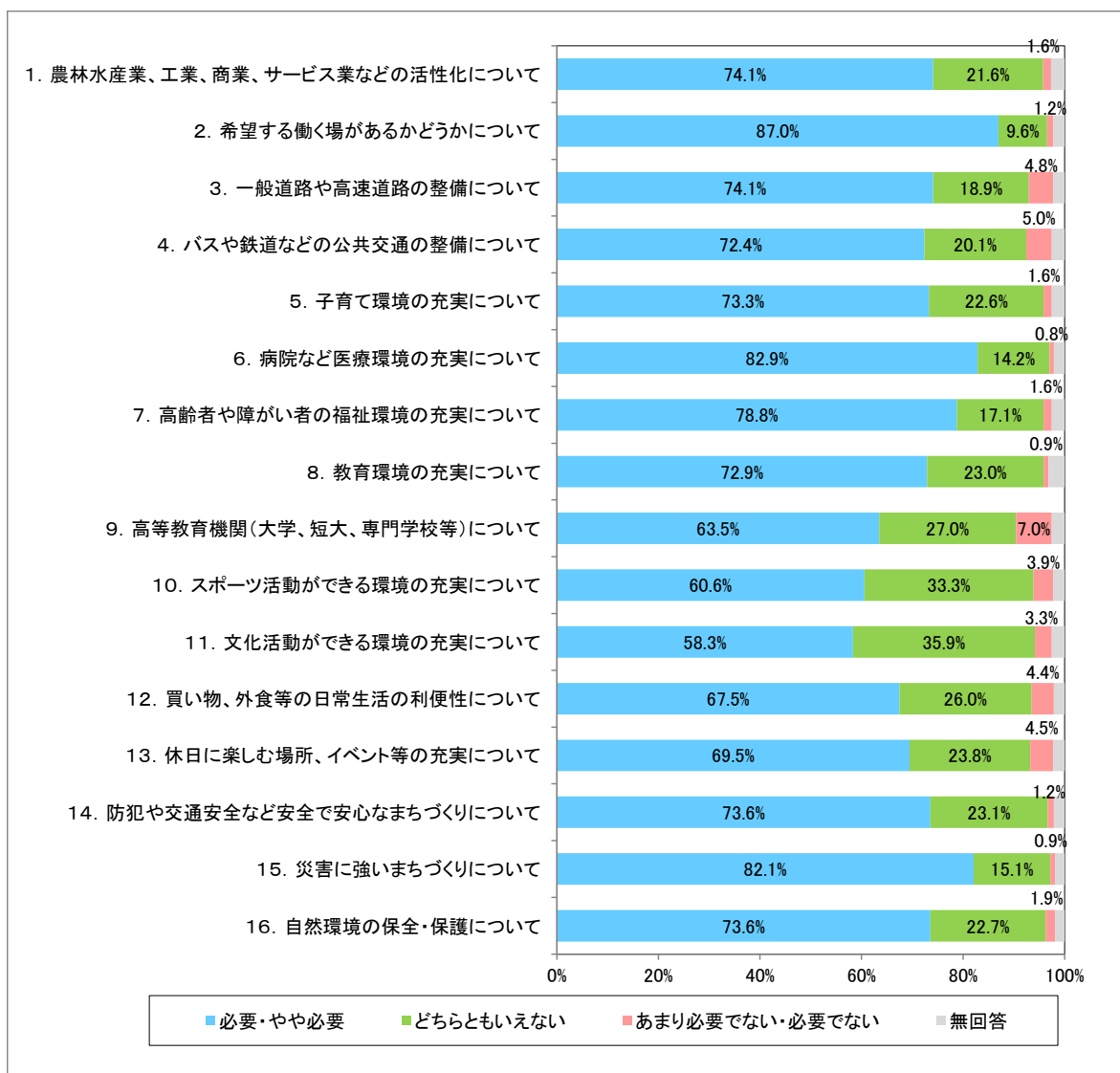
「文化活動ができる環境の充実について」…58.3%

「スポーツ活動ができる環境の充実について」…60.6%

「高等教育機関(大学、短大、専門学校等)について」…63.5%

図2-3-2 ニーズの状況

<全体>



③アンケート結果による政策の優先度(分析)

政策(行政)に関する市民の満足度・ニーズの高さから今後の政策の優先度を分析する。

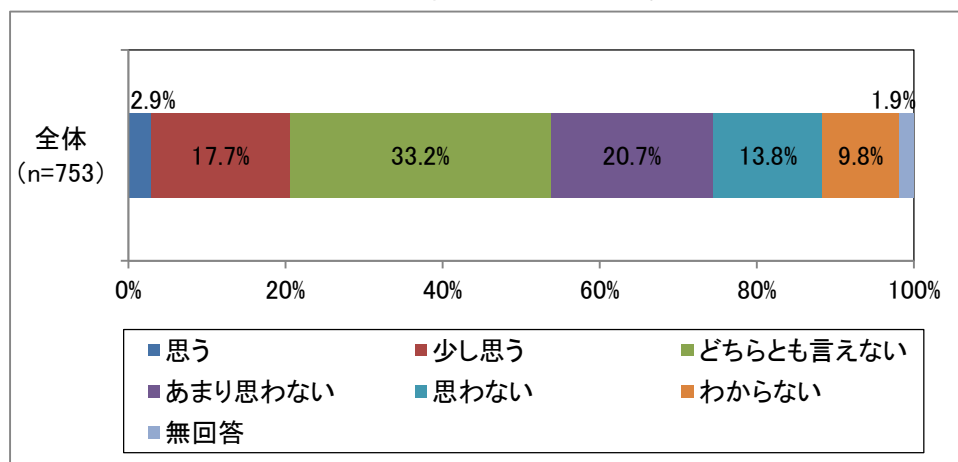
- ・「希望する働く場がある」は、市民の不満が高く、ニーズも高いことから政策の優先度が最も高いと推察する。
- ・「病院など医療環境の充実」についての不満は、第5位にあるが、ニーズは第2位となっており、その優先度が高い。
- ・「災害に強いまちづくり」についての不満は第7位(39.2%)にあるが、ニーズは第3位でその優先度は高い。
- ・一方、「高等教育機関」については、不満が高い(第2位)ものの、ニーズは下位にあり、その優先度は低いと推察する。

(4) 市民の地域づくりへの参加について

① 住民と行政による協働のまちづくりの状況 ※問16

- ・協働してまちづくりに取り組んでいると「思う」「少し思う」は 20.6%、「あまり思わない」「思わない」は 34.5%で後者が 13.9 ポイント上回っている。

図2-4-1 市民の地域づくりへの参加

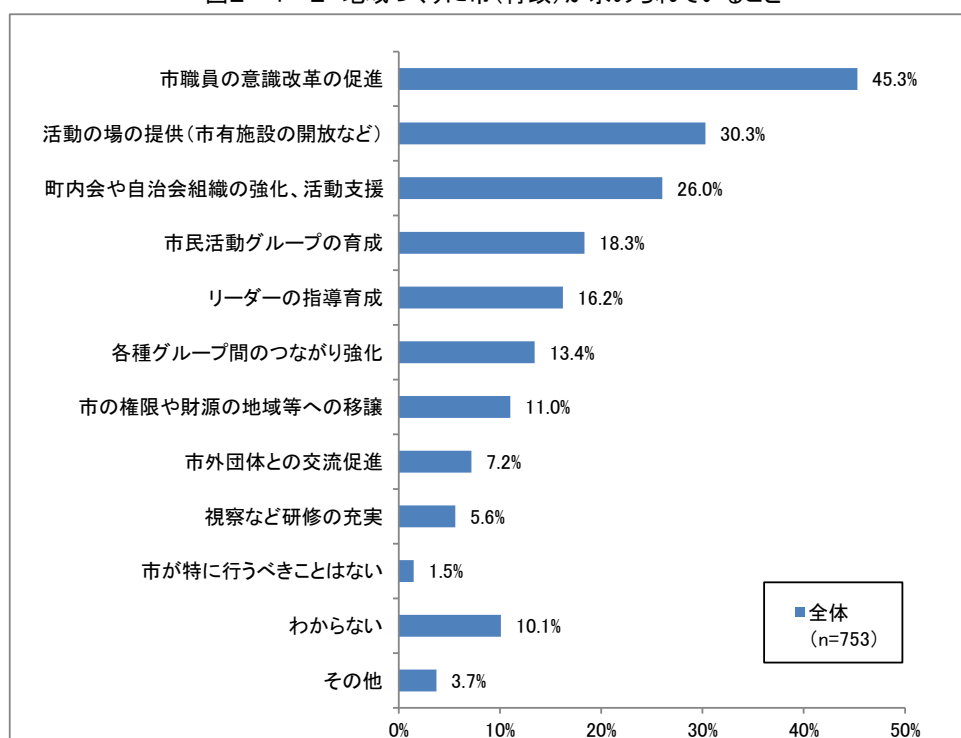


② 地域づくりにおいて市(行政)が求められていること ※問17

- ・市が求められている上位3項目は、「市職員の意識改革の促進」(45.3%)、「活動の場の提供(市有施設の開放など)」(30.3%)、「町内会や自治会組織の強化、活動支援」(26.0%)となっている。

なお、年代別分析でもこの傾向は同じである。

図2-4-2 地域づくりに市(行政)が求められていること

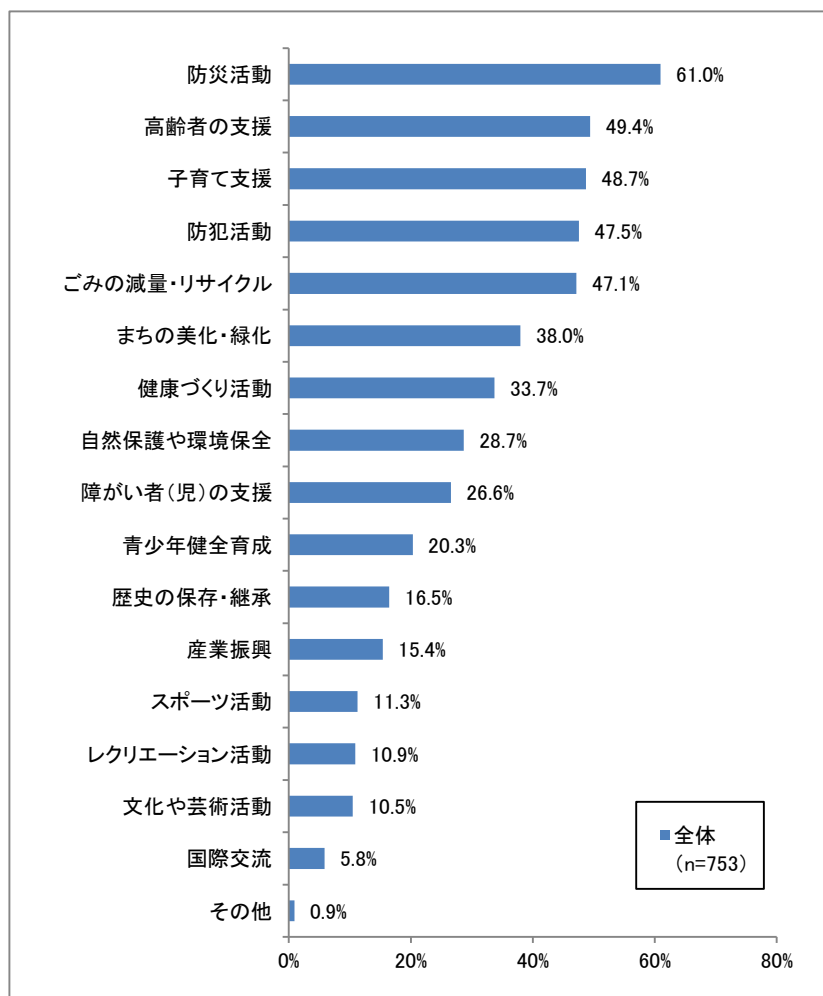


③地域づくりにおける地域や住民の役割 ※問18

・地域・住民の役割の上位3項目は、「防災活動」(61.0%)、「高齢者の支援」(49.4%)、「子育て支援」(48.7%)となっている。

なお、女性は「ごみの減量・リサイクル」(51.6%)で「防災活動」(60.3%)の次になっている。

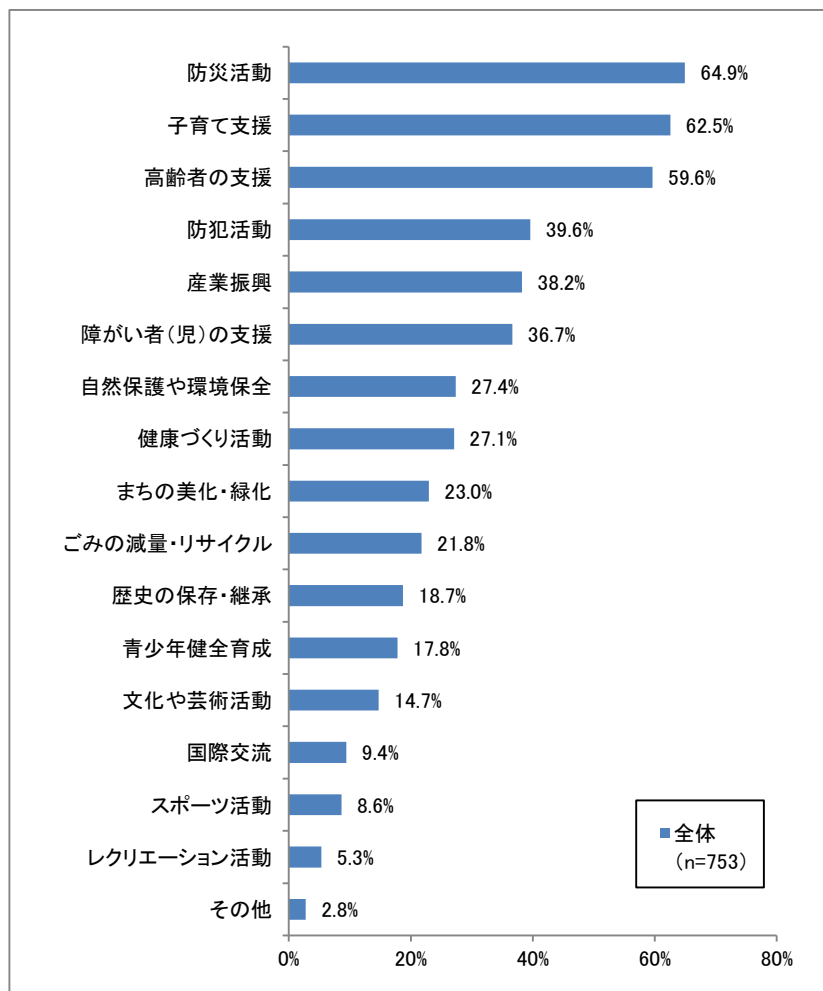
図2-4-3 地域づくりにおける地域や住民の役割



④地域づくりに向けて、市(行政)が主体となって取り組むべき活動・施策など ※問19

・市(行政)が主体となって取り組むべき活動の上位3項目は「防災活動」(64.9%)、「子育て支援」(62.5%)、「高齢者の支援」(59.6%)となっている。

図2-4-4 市(行政)が取り組むべき施策



⑤<まとめ>

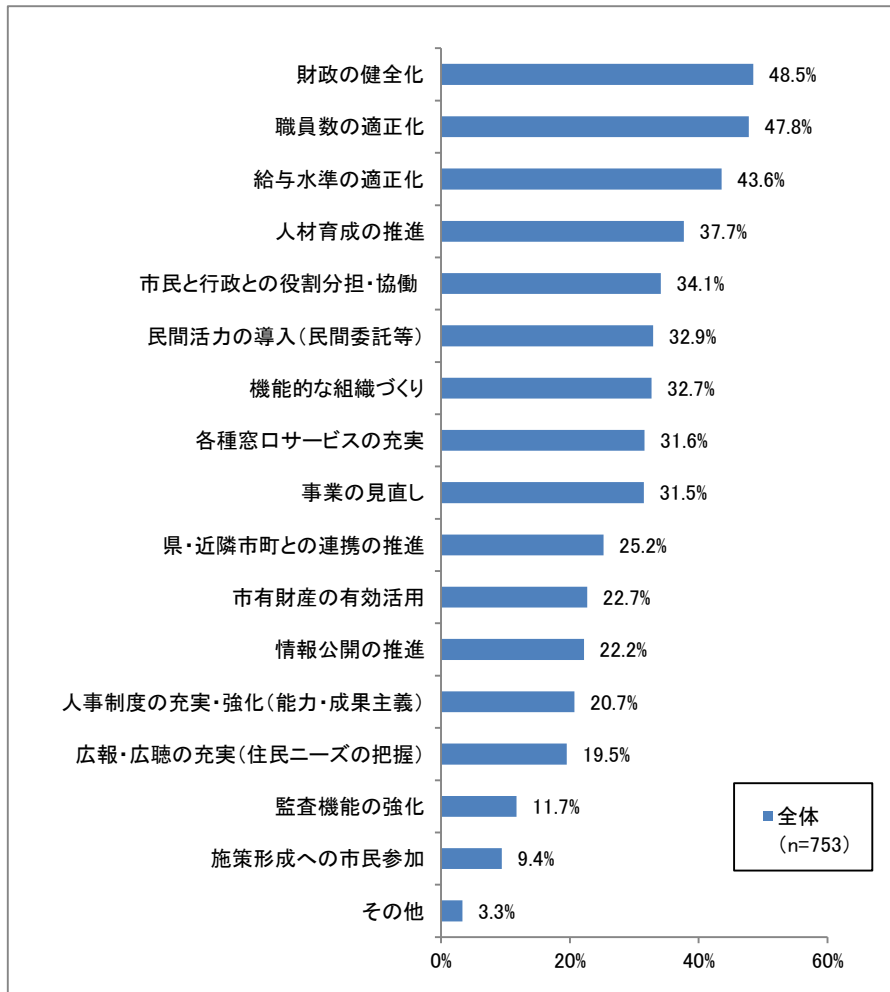
・地域づくりに向けての「地域・市民」と「市(行政)」が取り組む課題として、両者とも「防災活動」「子育て支援」「高齢者の支援」が上位3項目となっている。

(5) 行財政改革のあり方について

○行財政改革で市(行政)が取り組むべき課題 ※問20

- ・上位5項目は、「財政の健全化」(48.5%)、「職員数の適正化」(47.8%)、「給与水準の適正化」(43.6%)、「市民と行政の役割分担・協働」(34.1%)、「民間活力の導入(民間委託等)」(32.9%)となっている。

図2-5-1 行財政改革の課題



(6)結婚・子育てについて

(39歳以下の男女を調査対象としている。297人から回答を得た。)

①結婚・未婚の状況 ※問21

・未婚率は29歳以下が83.7%、30～39歳が44.9%となっている。

表6-1 結婚・未婚の状況 (単位:人・%)

		①結婚	②未婚	③合計 (①+②)
29歳以下	男性	7 14.6%	41 85.4%	48 100.0%
	女性	14 17.3%	67 82.7%	81 100.0%
	男女計	21 16.3%	108 83.7%	129 100.0%
30～39歳	男性	26 42.6%	35 57.4%	61 100.0%
	女性	61 62.9%	36 37.1%	97 100.0%
	男女計	87 55.1%	71 44.9%	158 100.0%
合計	男性	33 30.3%	76 69.7%	109 100.0%
	女性	75 42.1%	103 57.9%	178 100.0%
	男女計	108 37.6%	179 62.4%	287 100.0%

※離婚・死別、無回答を除く

※(%)は、(①÷③×100、②÷③×100)

②子どもの有無の状況 ※問22

表6-2 子どもの有無 (単位:人・%)

		①子どもがいる	②子どもがいない	③合計 (①+②)
29歳以下	男性	6 12.5%	42 87.5%	48 100.0%
	女性	11 13.6%	70 86.4%	81 100.0%
	男女計	17 13.2%	112 86.8%	129 100.0%
30～39歳	男性	18 29.0%	44 71.0%	62 100.0%
	女性	56 54.4%	47 45.6%	103 100.0%
	男女計	74 44.8%	91 55.2%	165 100.0%
合計	男性	24 21.8%	86 78.2%	110 100.0%
	女性	67 36.4%	117 63.6%	184 100.0%
	男女計	91 31.0%	203 69.0%	294 100.0%

※無回答を除く

※(%)は、(①÷③×100、②÷③×100)

③結婚による負担の有無 ※問23

・「結婚に負担を感じる」と思っている人は、未婚者では60.1%、既婚者で31.5%で前者が28.6ポイント上回っている。(→晩婚化の要因の1つ)

表6-3 結婚による負担の有無

(単位:人・%)

		①負担を感じる	②負担は感じない	③合計 (①+②)
既婚	男性	6 18.2%	27 81.8%	33 100.0%
	女性	28 37.3%	47 62.7%	75 100.0%
	男女計	34 31.5%	74 68.5%	108 100.0%
未婚	男性	49 67.1%	24 32.9%	73 100.0%
	女性	55 55.0%	45 45.0%	100 100.0%
	男女計	104 60.1%	69 39.9%	173 100.0%
合計	男性	55 51.9%	51 48.1%	106 100.0%
	女性	83 47.4%	92 52.6%	175 100.0%
	男女計	138 49.1%	143 50.9%	281 100.0%

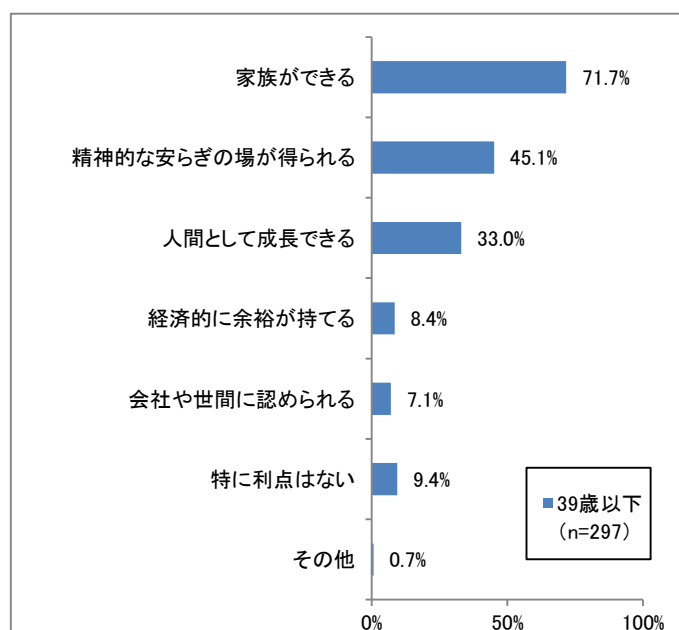
※離婚・死別、無回答を除く

※(%)は、(①÷③×100、②÷③×100)

④結婚することの利点 ※問24

・「家族ができる」(71.4%)の割合が最も高い。

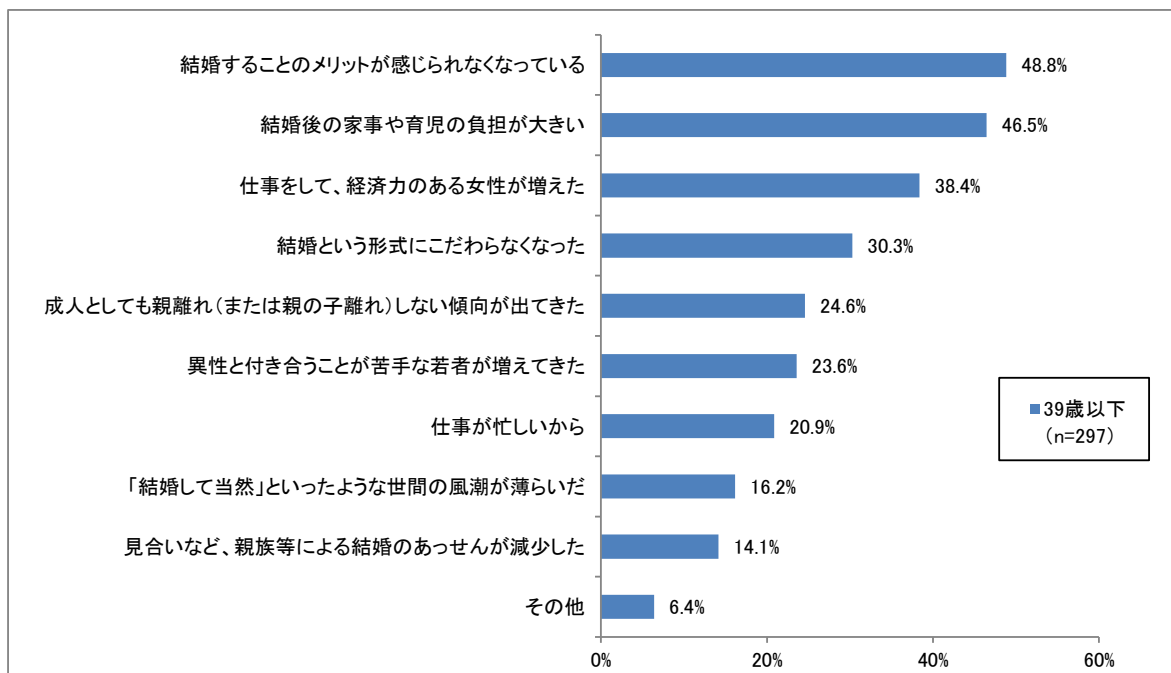
図2-6-1 結婚することの利点



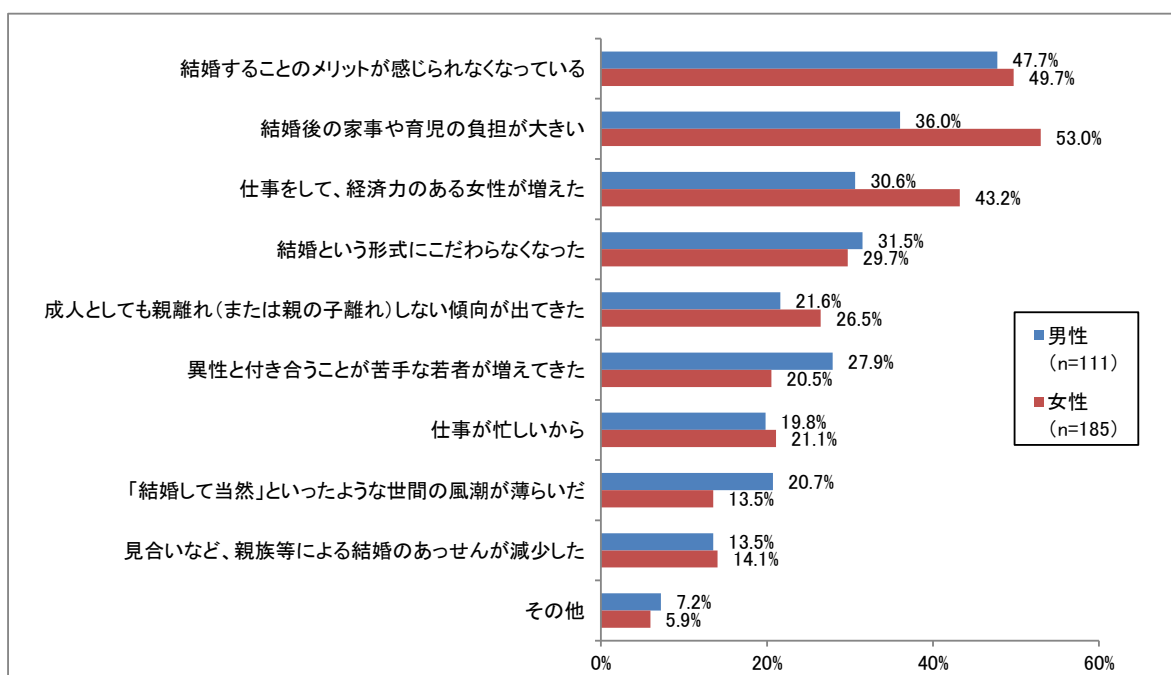
⑤結婚しない人が増えている理由 ※問25

- 理由の上位3項目は「結婚することのメリットが感じられなくなっている」(48.8%)、「結婚後の家事や育児の負担が大きい」(46.5%)、「仕事をして、経済力のある女性が増えた」(38.4%)となっている。
- このような中で、女性は「結婚後の家事や育児の負担が大きい」(53.0%)が第1位である。

図2-6-2 結婚しない理由



<男女別>



⑥子育てに関する不安や負担の有無について ※問26

・「とても感じる」「なんとなく感じる」を合わせると63.6%となっている。また既婚の人、女性にこの傾向が強くなっている。

・<子どものいる人・いない人>で分析すると、「悩みや不安を感じる」は、子どものいる人は68.8%、子どものいない人は86.5%で後者が17.7ポイント上回っている。

図2-6-3 子育てに関する不安・負担

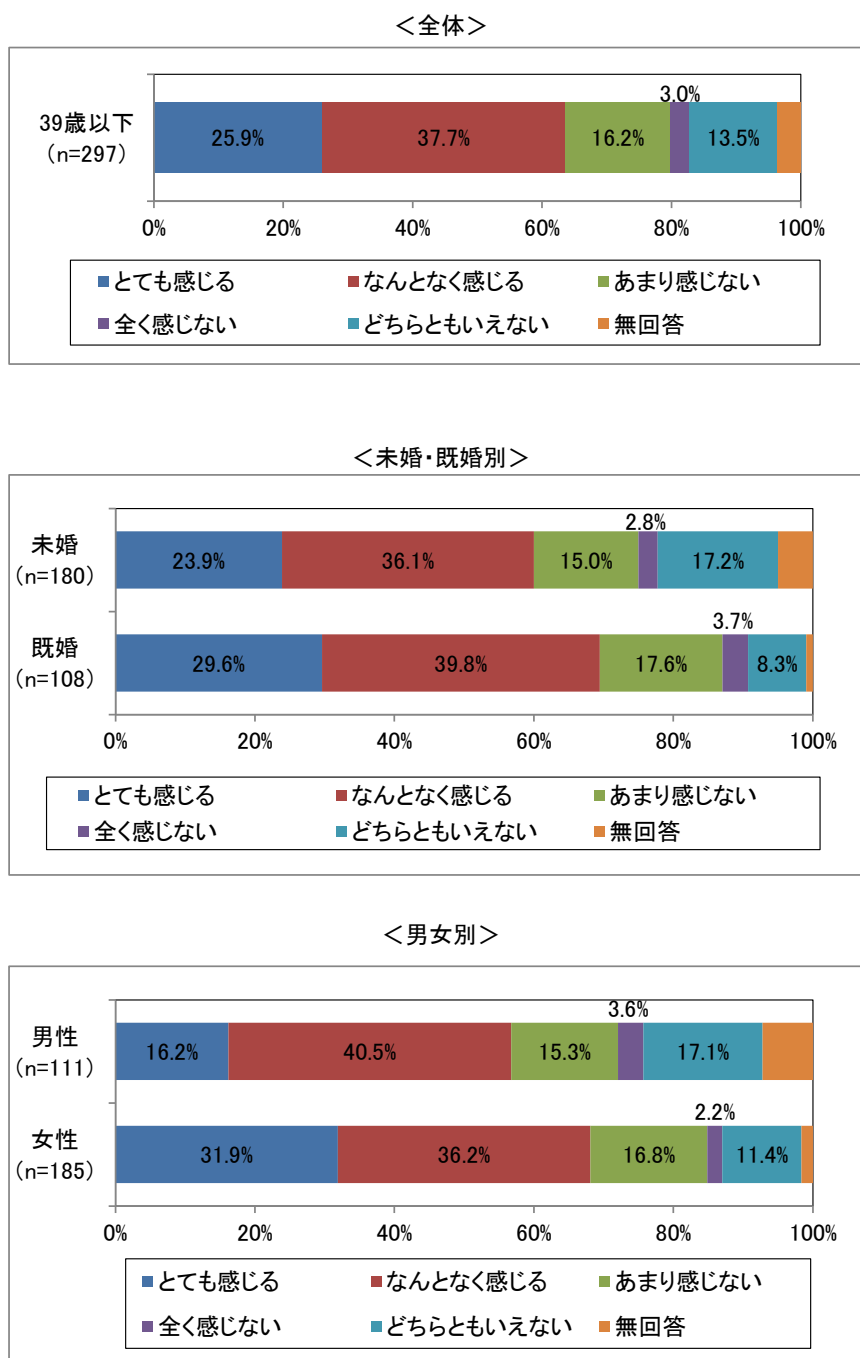


表6-4 子育てに関する不安・負担

<子どものいる人・いない人>

(単位:人・%)

		①悩みや不安を感じる	②悩みや不安を感じない	③合計 (①+②)
子どものいる人	男性	17 94.4%	1 5.6%	18 100.0%
	女性	47 88.7%	6 11.3%	53 100.0%
	男女計	64 68.8%	29 31.2%	93 100.0%
子どものいない人	男性	53 71.6%	21 28.4%	74 100.0%
	女性	82 100.0%	0 0.0%	82 100.0%
	男女計	135 86.5%	21 13.5%	156 100.0%
合計	男性	70 76.1%	22 23.9%	92 100.0%
	女性	129 95.6%	6 4.4%	135 100.0%
	男女計	199 79.9%	50 20.1%	249 100.0%

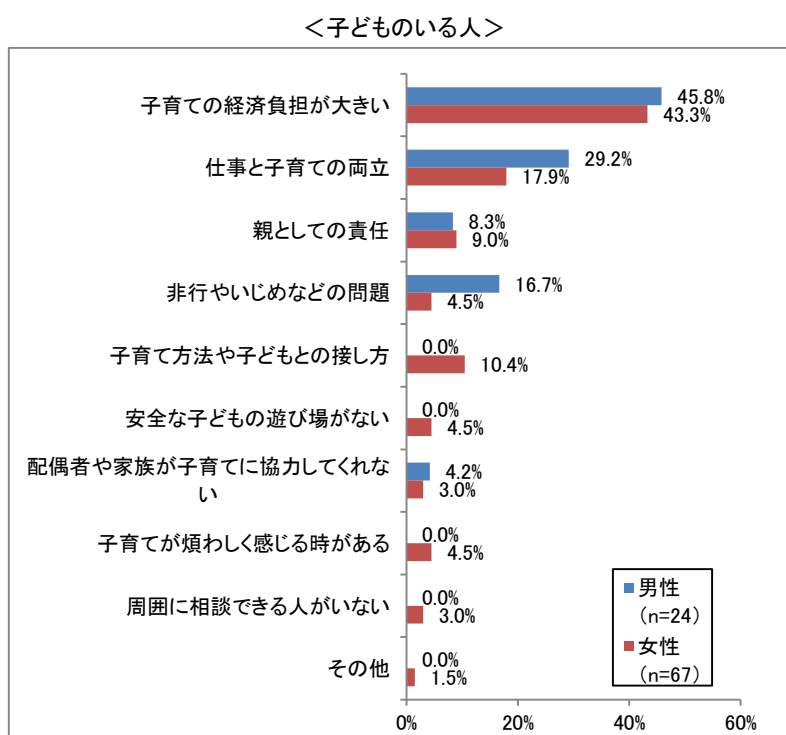
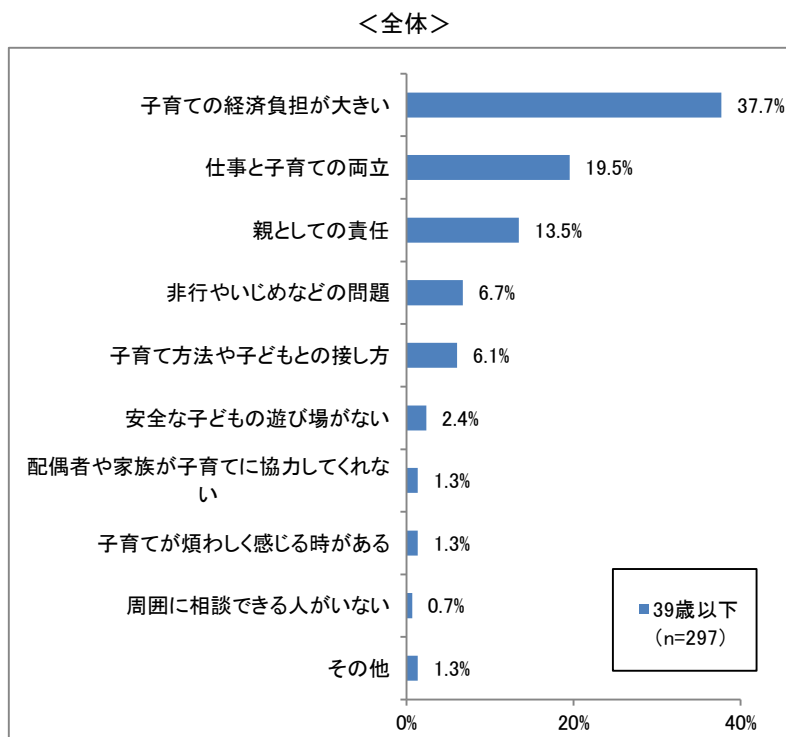
※(%)は、(①÷③×100、②÷③×100)

⑦子育てに関する悩みや不安の内容について ※問27

・「子育ての経済負担が大きい」(37.7%)、「仕事と子育ての両立」(19.5%)を合わせると57.2%となり、この両者が子育てに関する悩みや不安の大宗である。

・こうした中で、子どものいる人では、前記の割合が一層大きくなっている。

図2-6-4 子育てに関する悩み・不安の内容



⑧欲しい子どもの数について(既婚者117人を調査対象) ※問29

ア. <理想としている子どもの数>は、「1人」(5.1%)、「2人」が30.6%、「3人」が27.6%、「4人以上」が5.1%となっており、「2人以上」は63.3%である。

イ. <現在の子ども数>は、「2人」(30.8%)、「1人」が24.8%、「3人以上」が18.8%となっており、子どものいる人は74.4%である。(子どもがいない人は23.1%)

また、この中で「2人以上」は49.6%となる。

ウ. このようなことから、欲しい子どもの数(「2人以上」)には「理想」と「現実」の間には13.7%ポイントのギャップがある。その理由の第1位は、「子育ての経済的負担が大きいから」(76.5%)となっている。(問30)

図2-6-5 理想としている子どもの数(現在の子ども数を含む)

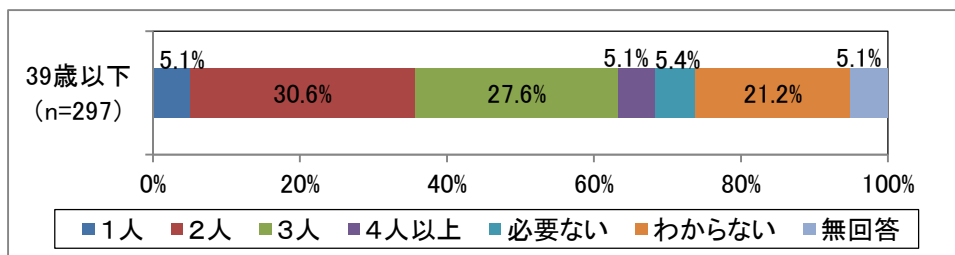


図2-6-6 現在の子ども数

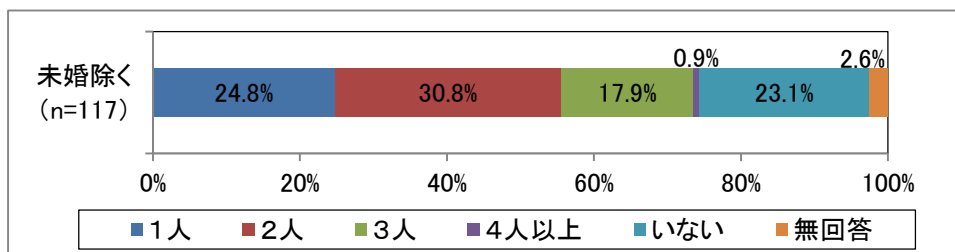
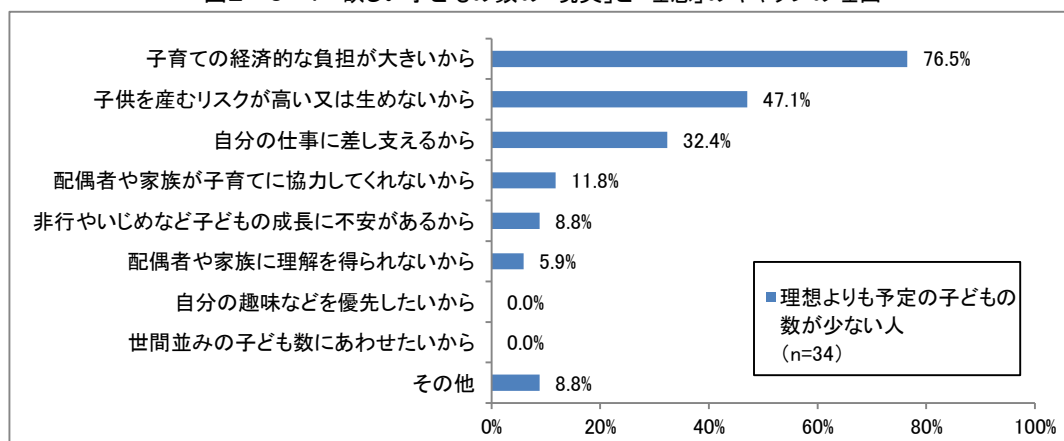


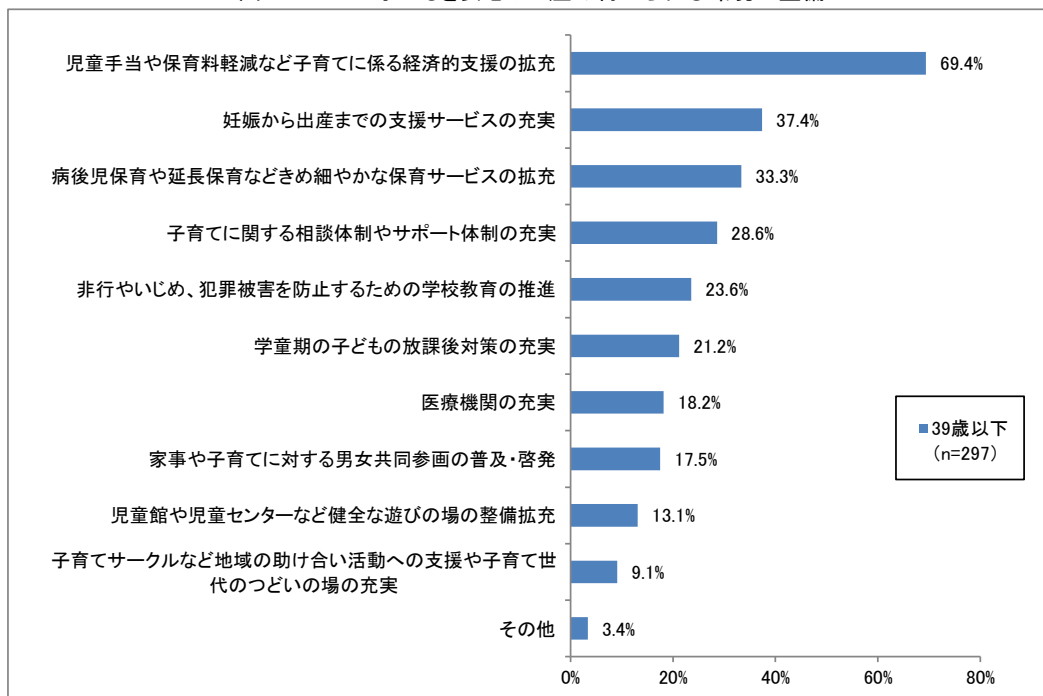
図2-6-7 欲しい子どもの数の「現実」と「理想」のギャップの理由



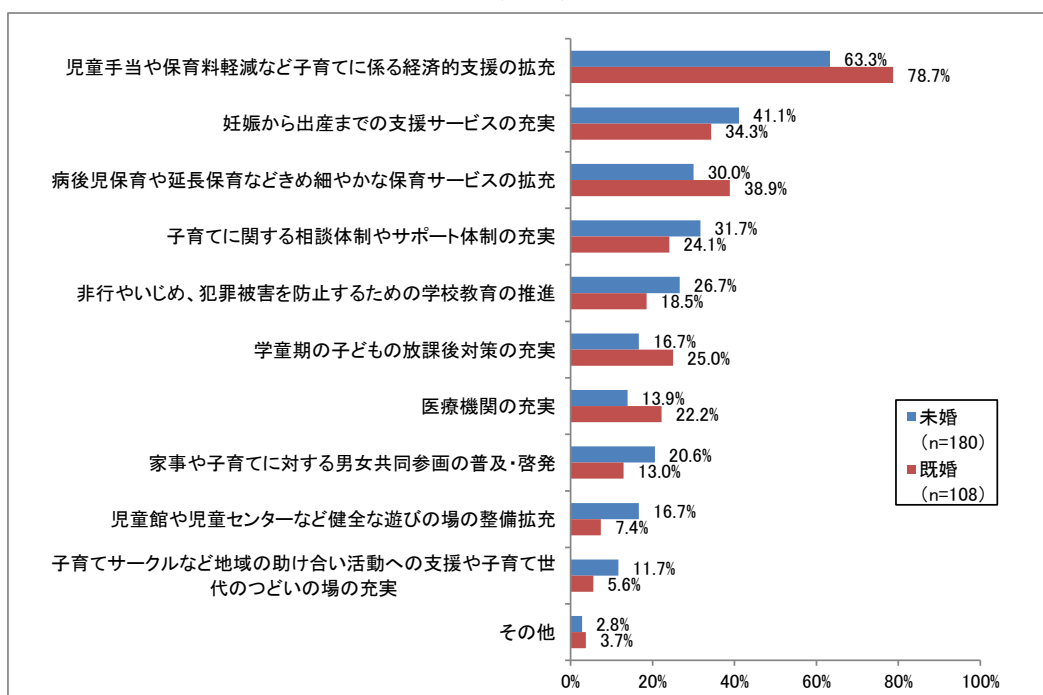
⑨子どもを安心して産み育てられる環境の整備について ※問32

- ・上位3項目は「児童手当や保育料軽減など子育てに係る経済的支援の拡充」(69.4%)、「妊娠から出産までの支援サービスの充実」(37.4%)、「病後児保育や延長保育などきめ細やかな保育サービスの拡充」(33.3%)となっている。
- ・この順位は、既婚者・未婚者別の分析でも同じとなっている。

図2-6-8 子どもを安心して産み育てられる環境の整備



<未婚・既婚別>



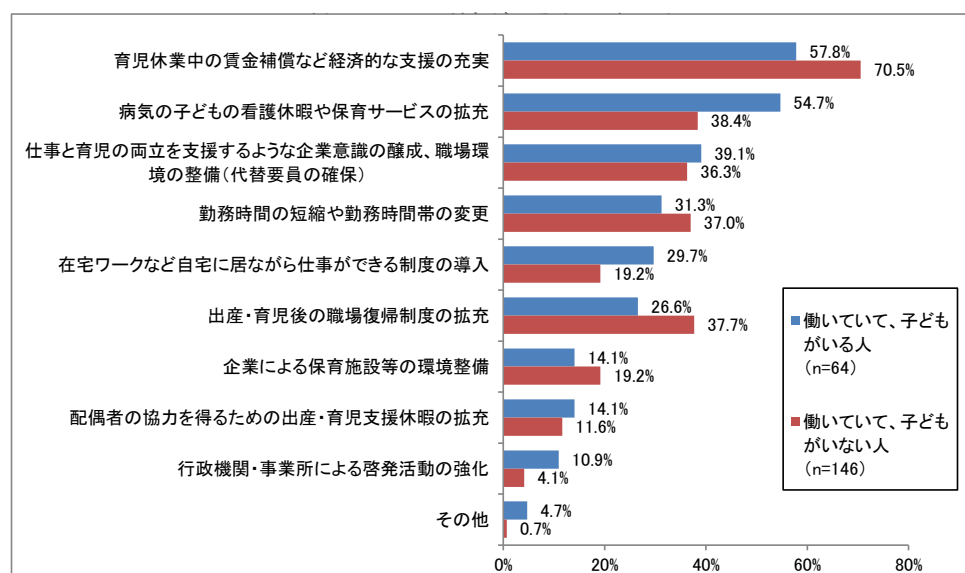
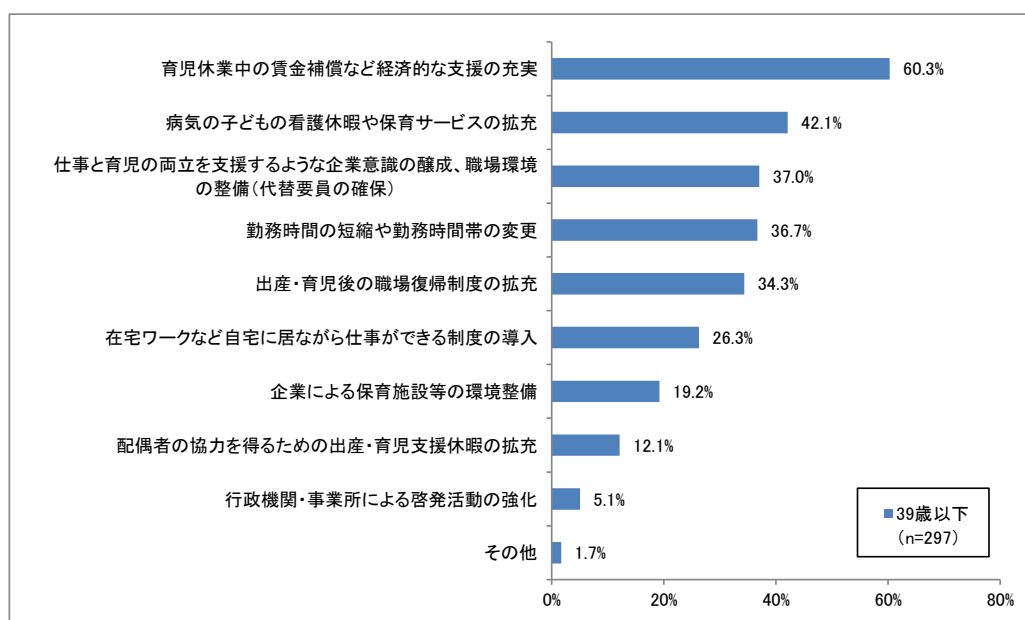
⑩子育てと仕事を両立させるための対策 ※問33

・上位3項目は、「育児休業中の賃金補償など経済的な支援の充実」(60.3%)、「病気の子どもの看護休暇や保育サービスの拡充」(42.1%)、「仕事と育児の両立を支援するような企業意識の醸成、職場環境の整備(代替要員の確保)」(37.0%)となっている。

・なお、<働いていて子どもがいる人・いない人>で分析すると、上記と同じ傾向にあるが、<働いていて子どものいない人>は、「育児休業中の賃金補償など経済的な支援の充実」(70.5%)が突出している。また、「出産・育児後の職場復帰制度の拡充」(37.7%)も比較的高い状況にある。

図2-6-9 子育てと仕事を両立させるための対策

<全体>



第2章 高校生アンケート調査の結果

1. 調査対象

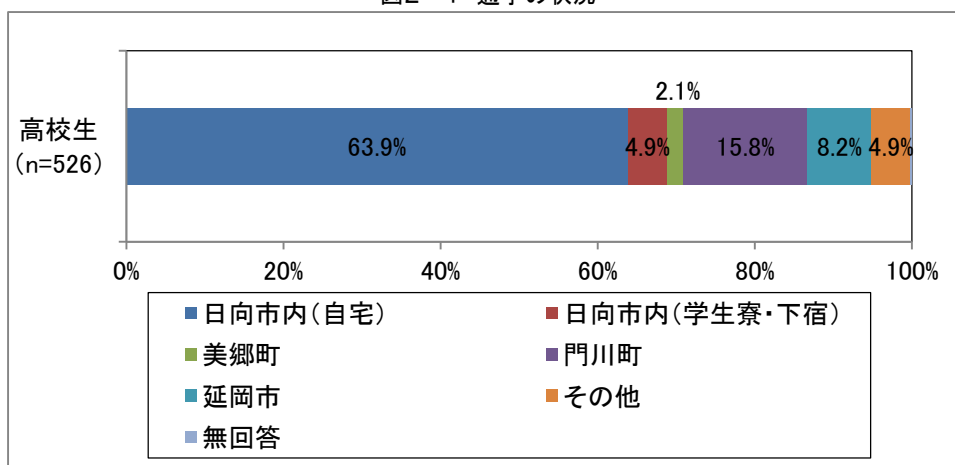
日向市内高校(3校)3年生 526人[男性278人(52.9%)、女性248人(47.1%)]

2. 調査結果

(1) 通学の状況 ※問2

・市外からの通学は門川町(15.8%)からが最も多い。

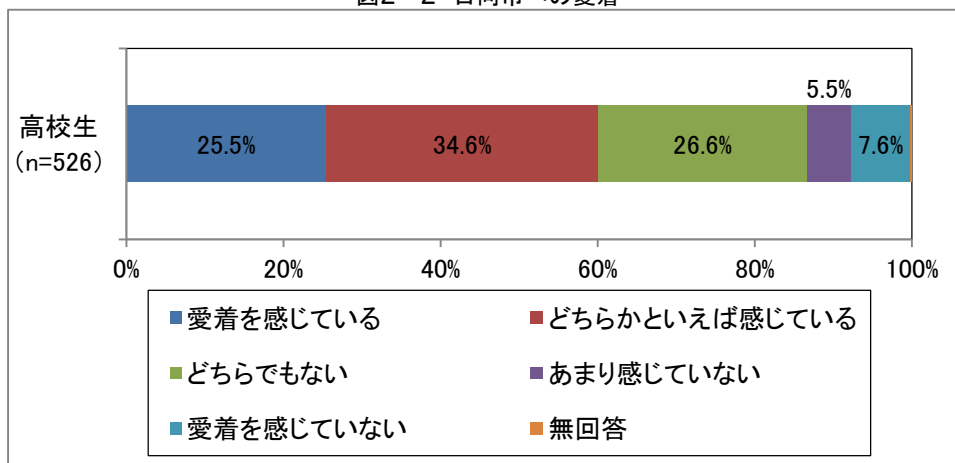
図2-1 通学の状況



(2) 日向市への愛着 ※問3

・「愛着を感じていない・あまり感じていない」は 13.1%であり、ほとんどが愛着を感じている。

図2-2 日向市への愛着

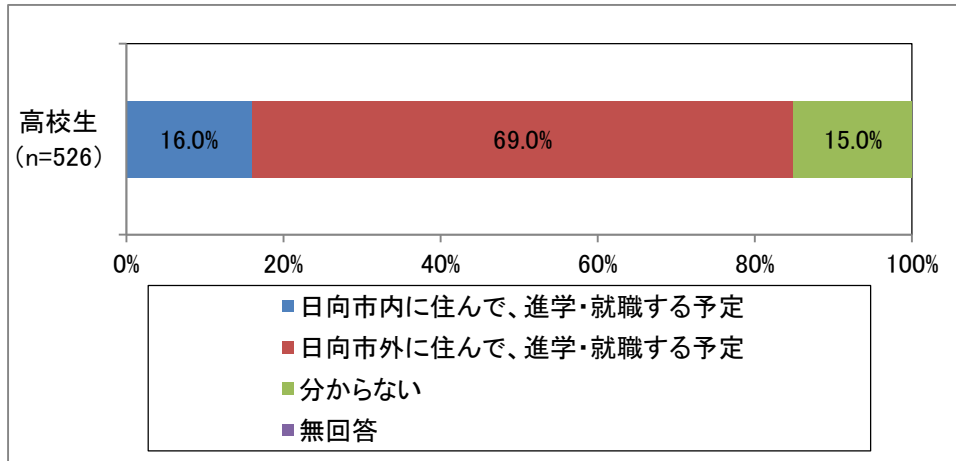


(3) 卒業後の予定

・「日向市外に住んで、進学・就職する予定」が69.0%であり、市内は16.0%で極めて少ない。

(※問4)

図2-3-1 卒業後の予定



<将来、日向市に住みたいかどうか> ※問5-1

・将来、日向市に「住みたくない」は26.0%だけであり、「住みたい・わからない」は73.4%で、ふるさと志向が少なからずあることが推察できる。

・また、日向市に「住みたい」理由は「人のつながり(家族・親族・友人)」(81.7%)が大宗を占めている。(将来、日向市に「住みたい」(19.8%[104人]の回答)(※問5-2)

図2-3-2 将来、日向市に住みたいかどうか

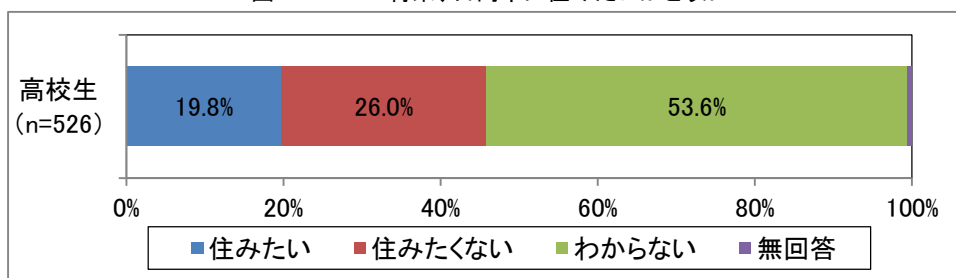
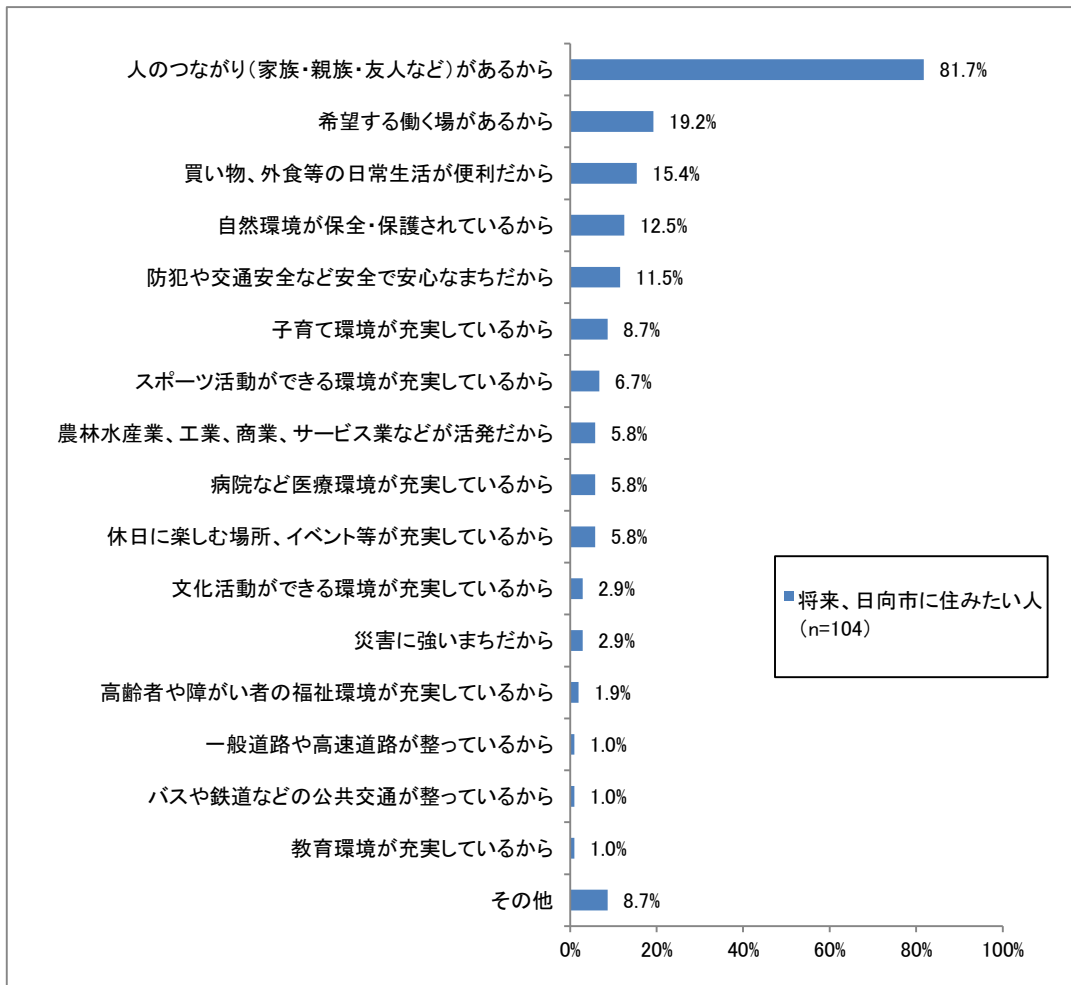


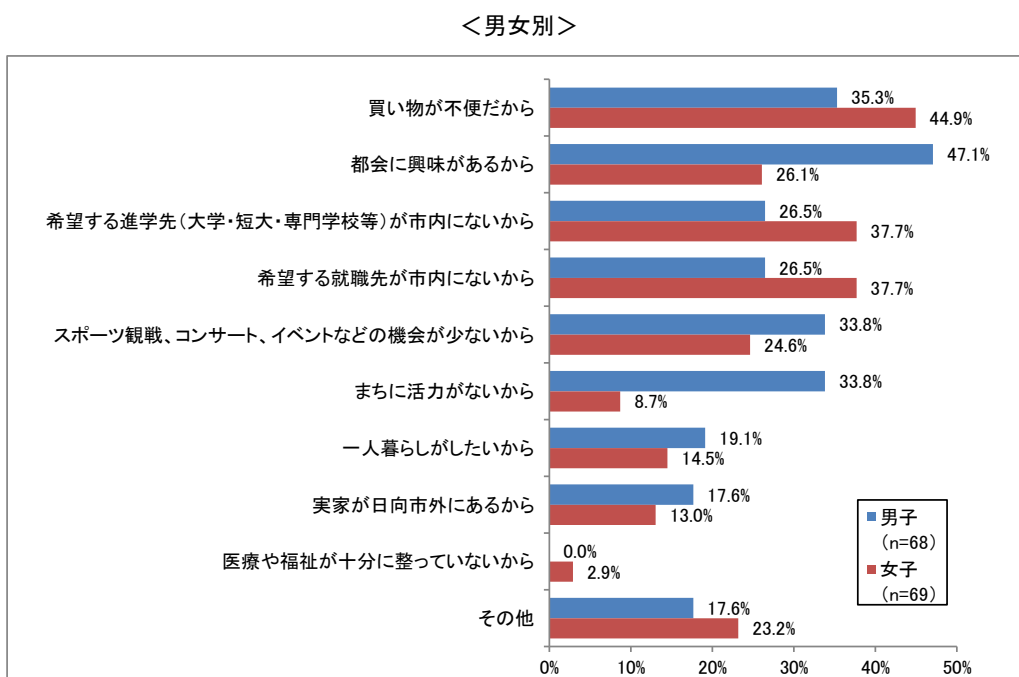
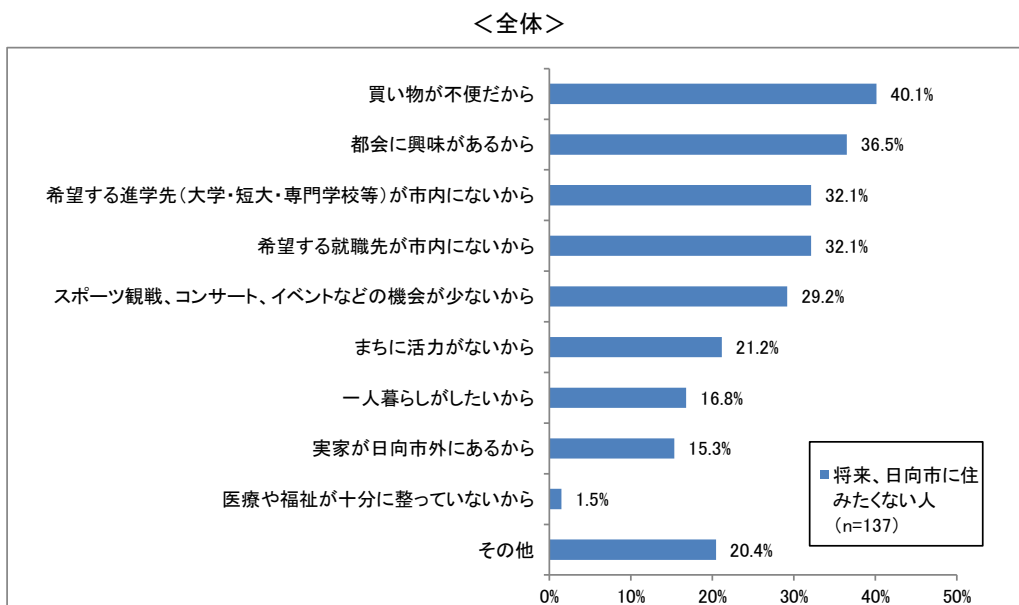
図2-3-3 将来、日向市に住みたい理由



(4) 将来、日向市に住みたくない理由 ※問7

- 理由の上位3項目は、「買い物が不便だから」(40.1%)、「都会に興味があるから」(36.5%)、「希望する進学先・就職先がないから」(32.1%)となっている。
- 男子は上位3項目に、「都会に興味があるから」(47.1%)、「買い物が不便だから」(35.3%)、「スポーツ観戦、コンサート、イベントなどの機会が少ないから」(33.8%)が挙げられている。女子は「買い物が不便だから」(44.9%)、「希望する進学先(大学・短大・専門学校等)が市内にないから」(37.7%)が挙げられている。

図2-4-1 問5で「将来、日向市に住みたくない」と回答した人の理由

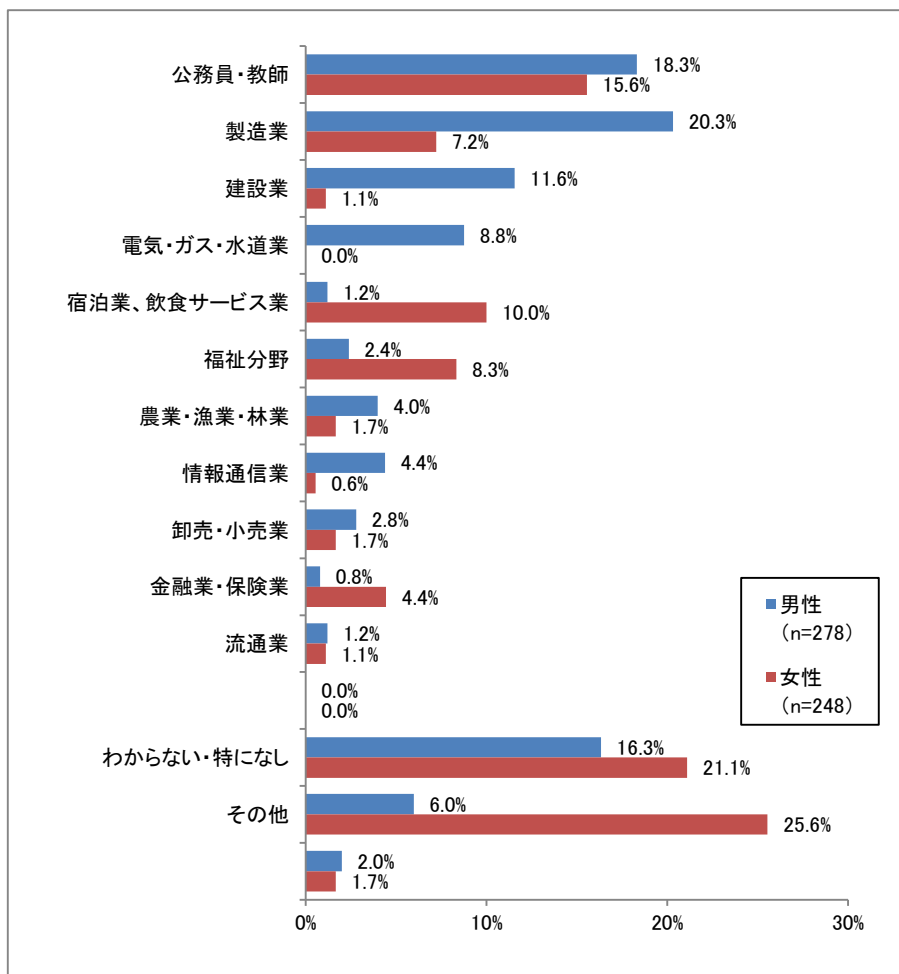


(5) 将来、希望する仕事・職種 ※問8

・男子は「製造業」(18.8%)、女子は「医療分野」(27.4%)が第1位となっている。

図2-5-1 将来、希望する仕事・職種

<男女別>



(6) 将来どのようなまちに住みたいか ※問9

・上位3項目は、「人のつながり(家族・親族・友人など)があるまち」(47.0%)、「買い物、外食等の日常生活が便利なまち」(38.2%)、「休日に楽しむ場所、イベント等が充実しているまち」(38.2%)となっている。

・「市民アンケート」におけるニーズ(第1位「希望する働く場がある」、第2位「病院など医療環境の充実」、第3位「災害に強いまちづくり」とは相当のギャップがあると推察する。(P9 参照)

・<将来、日向市に住みたくない>と回答した人の「住みたいまち」のイメージは、「休日に楽しむ場所、イベント等が充実しているまち」(43.8%)、「買い物、外食等の日常生活が便利なまち」(40.9%)、「バスや鉄道などの公共交通が整っているまち」(35.0%)となっている。

一方、「人のつながり(家族・親族・友人など)があるまち」(31.4%)は、住みたいまちの条件としての要因は小さいと推察できる。

図2-6-1 『住みたいまち』のイメージ

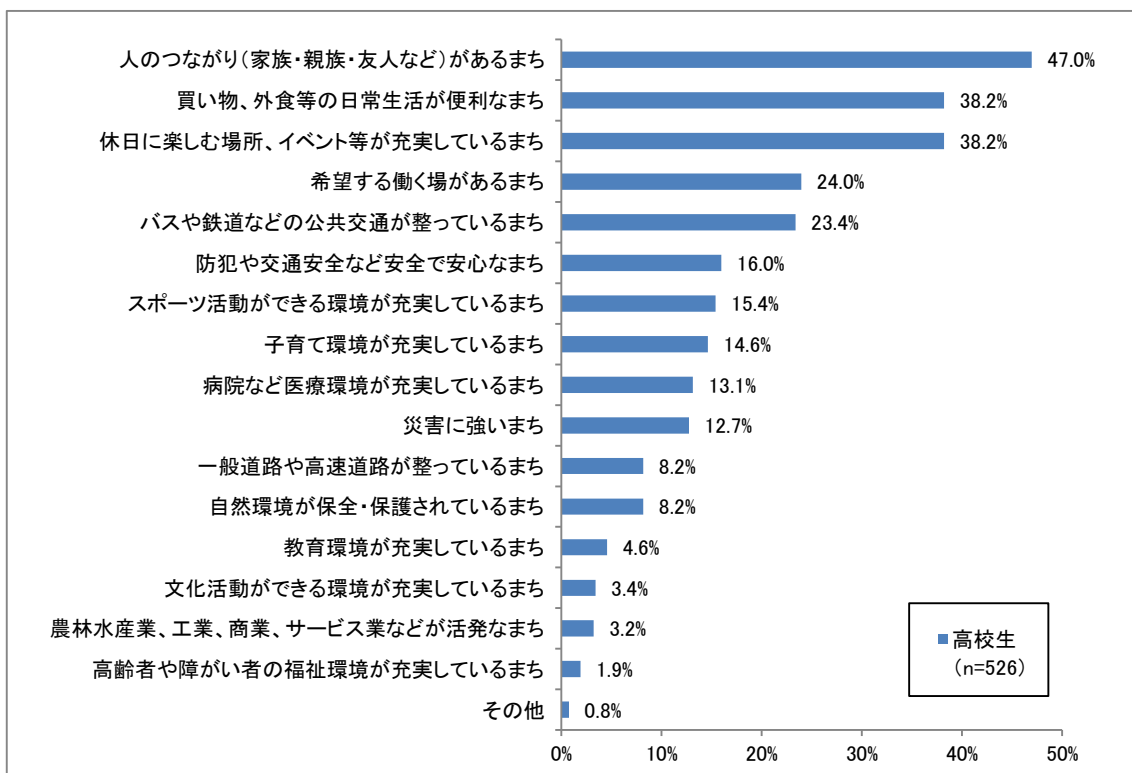
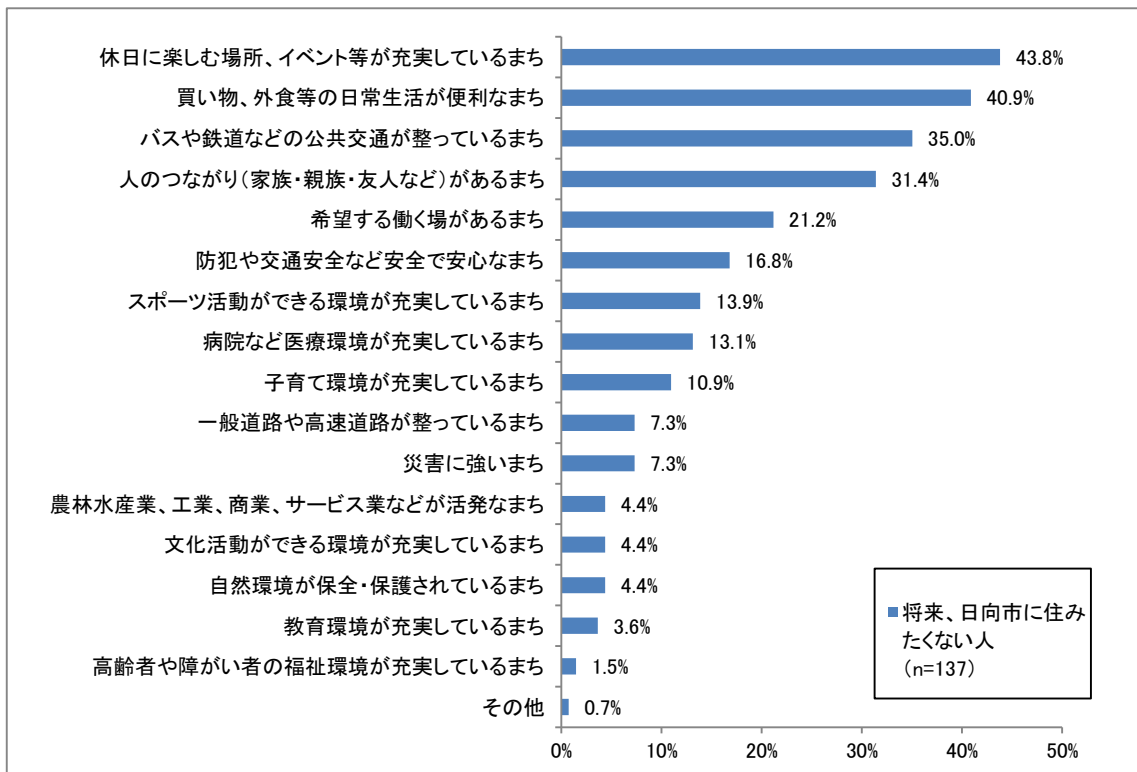


図2-6-2 問5で「将来、日向市に住みたくない」と回答した人の『住みたいまち』のイメージ



第3章 転出・転入者アンケート調査の結果

I 転出者アンケート

1. 調査対象

この1年間に日向市外へ転出した20～49歳の人(住民基本台帳より抽出)…200人
→回答者53人(回収率26.5%)

2. 回答者の概要

(1) 性別・年代別

・30代が最も多い。(62.3%)

表2-1-1 性別・年代

(単位:人、%)

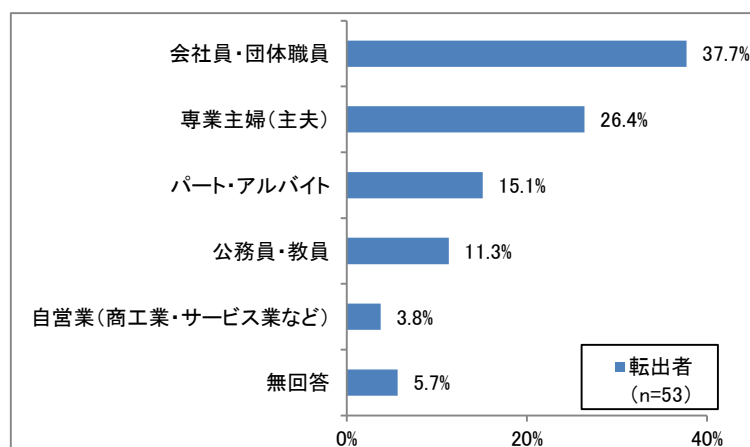
	男性	女性	男女計
29歳以下	3 15.0%	2 6.5%	5 9.8%
30～39歳	11 55.0%	22 71.0%	33 64.7%
40～49歳	6 30.0%	7 22.6%	13 25.5%
年齢計	20 100.0%	31 100.0%	51 100.0%

※無回答を除く

(2) 職業別 ※問3

・会社員・団体職員は33.7%、専業主婦(夫)は26.4%で3分の2に近い状況にある。

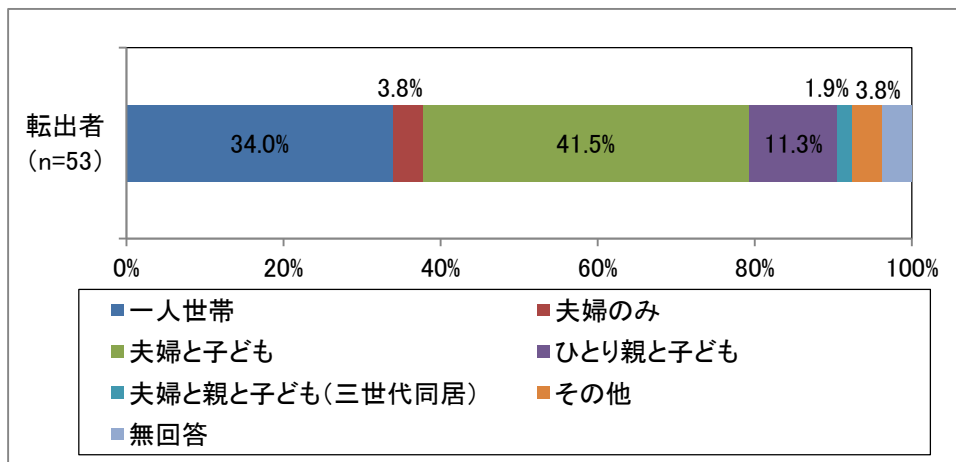
図2-2-1 職業



(3) 家族の構成 ※問4

- ・「夫婦と子ども」(41.5%)、「一人世帯」(34.0%)で4分の3を占めている。

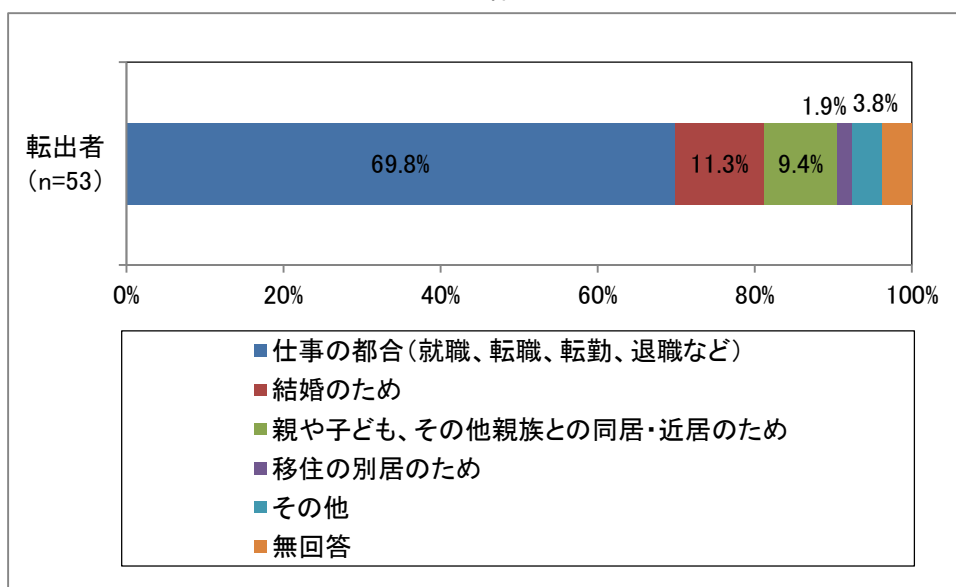
図2-3-1 家族構成



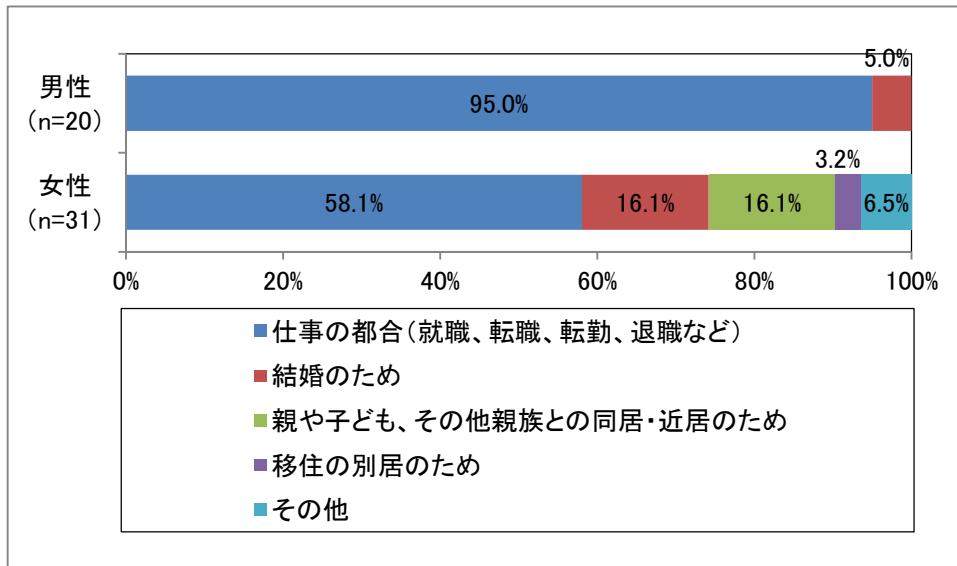
(4) 転出の理由 ※問6

- ・転出の理由は、「仕事の都合(就職、転職、転勤、退職など)」(69.8%)が最も大きいですが、女性は個人的事情、すなわち「結婚のため」(16.1%)と「親や子ども、その他親族との同居・近居のため」(16.1%)を合わせると32.2%となる。
- ・転出者の数が最も多い30代の転出理由を分析すると、「仕事の都合(就職、転職、転勤、退職など)」(72.7%)の割合がトップとなっている。

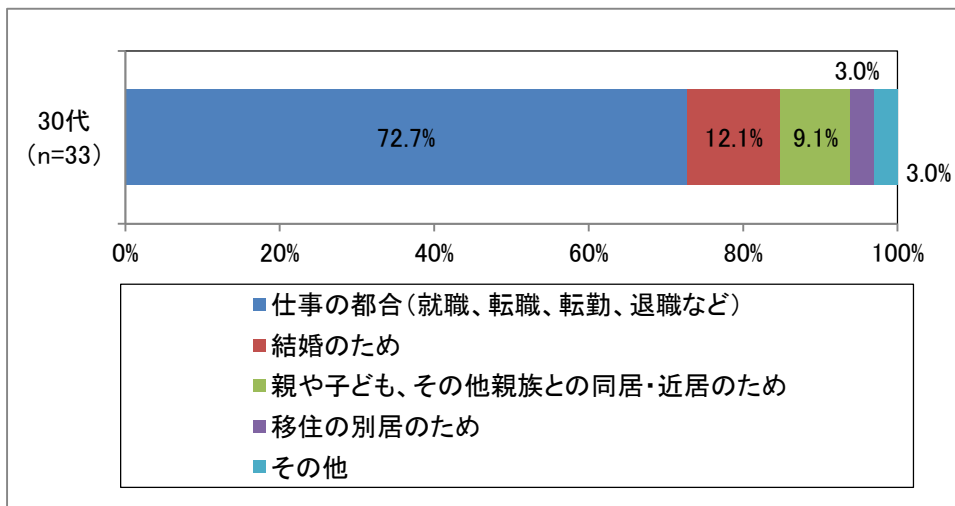
図2-4-1 転出の理由
<全体>



<男女別>



<30代>



3. 調査結果

(1) 日向市へのUターンについて

① 日向市は住みやすいまちか ※問7

・「住みやすかった」「まあまあ住みやすかった」を合わせると 77.4%、逆に「住みにくかった」は 3.8%となっている。

② 今後、日向市にUターンしたいか ※問8

・上記①で 77.4%の人が「住みやすい・まあまあ住みやすい」と思っていたが、Uターンについては 34.0%が否定的(Uターンしたくない)である。

図3-1-1 日向市は住みやすいまちか

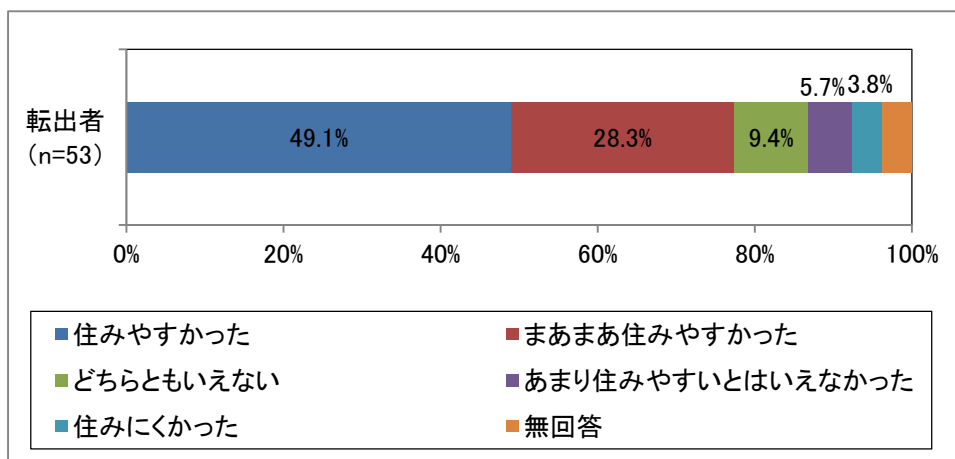
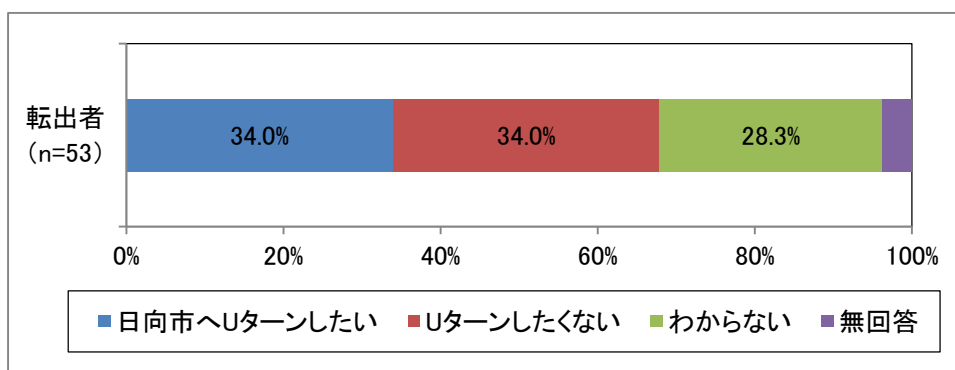


図3-1-2 Uターンの可能性

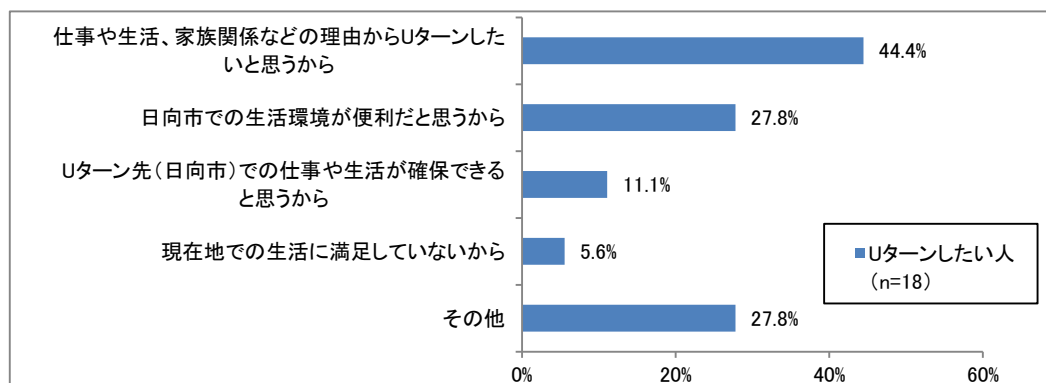


③日向市へUターンしたい人・したくない人の理由 ※問9

ア. Uターンしたい人(18人)

- ・「仕事や生活、家族関係などの理由からUターンしたいと思うから」(44.4%)で第1位であるが、「日向市での生活環境が便利だと思うから」(27.8%)が第2位であり、日向市への積極的評価が推察できる。

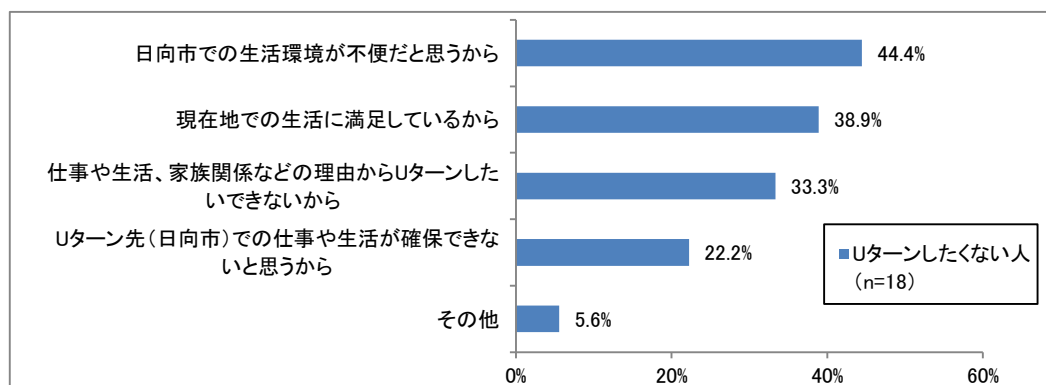
図3-1-3 Uターンしたい人の理由



イ. Uターンしたくない人(18人)

- ・「日向市での生活環境が不便だと思うから」(44.4%)で第1位となっており、上記「ア」と評価が分かれている。

図3-1-4 Uターンしたくない人の理由

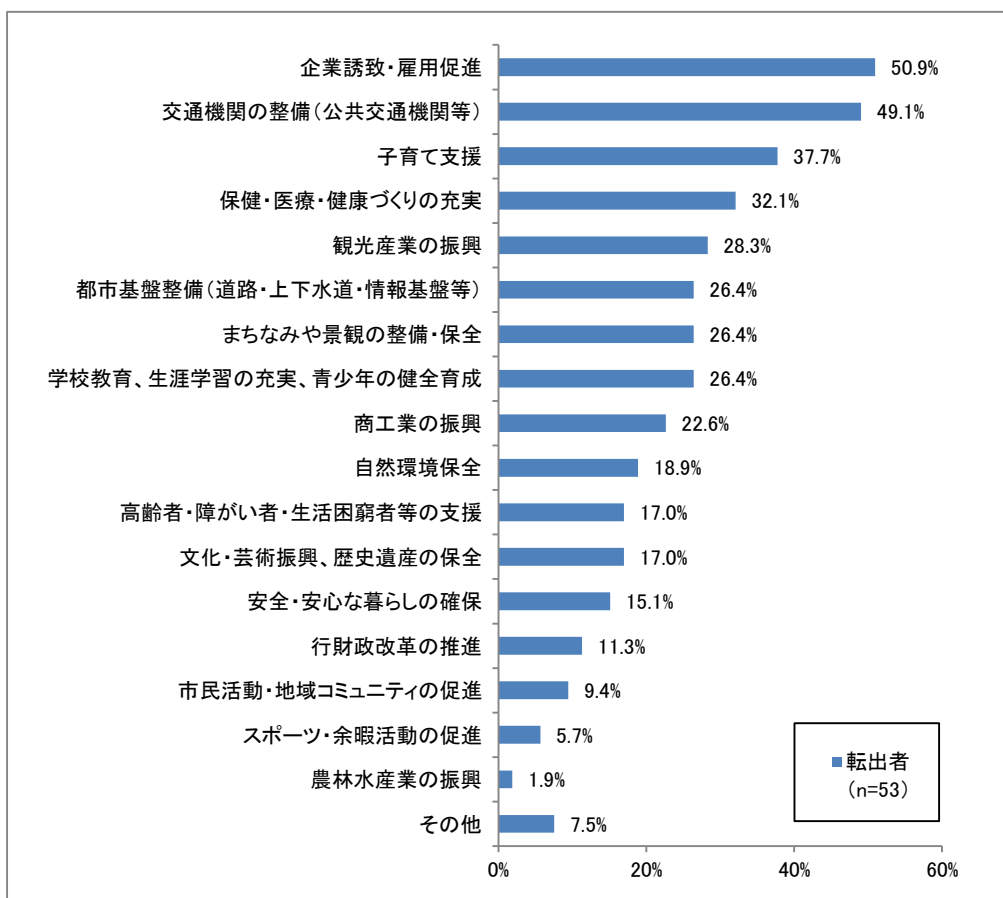


(2) 日向市が住みよいまちになるために取り組むべき課題 ※問10

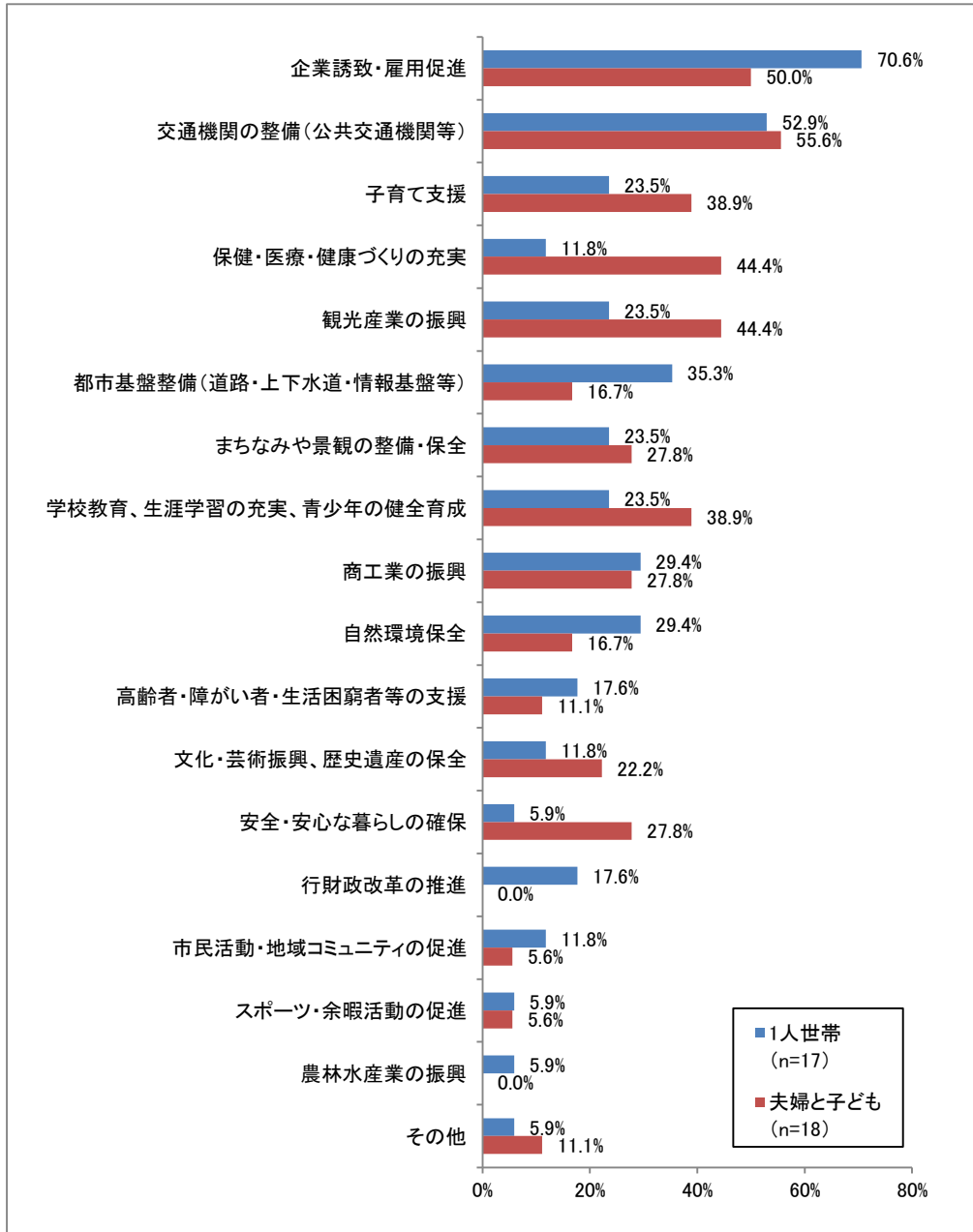
- ・上位3項目は、「企業誘致・雇用促進」(50.9%)、「交通機関の整備(公共交通機関等)」(49.1%)、「子育て支援」(37.7%)となっている。
- ・これを家族構成で分析すると、一人世帯では、上記第1位、第2位の項目は同じである。夫婦と子ども世帯では、「交通機関の整備(公共交通機関等)」(55.6%)、「観光産業の振興」(44.4%)、「保健・医療・健康づくりの充実」(44.4%)が上位にある。(「子育て支援」は38.9%で中位にある。)

図3-2-1 日向市が取り組むべき課題

<全体>



<家族構成別>

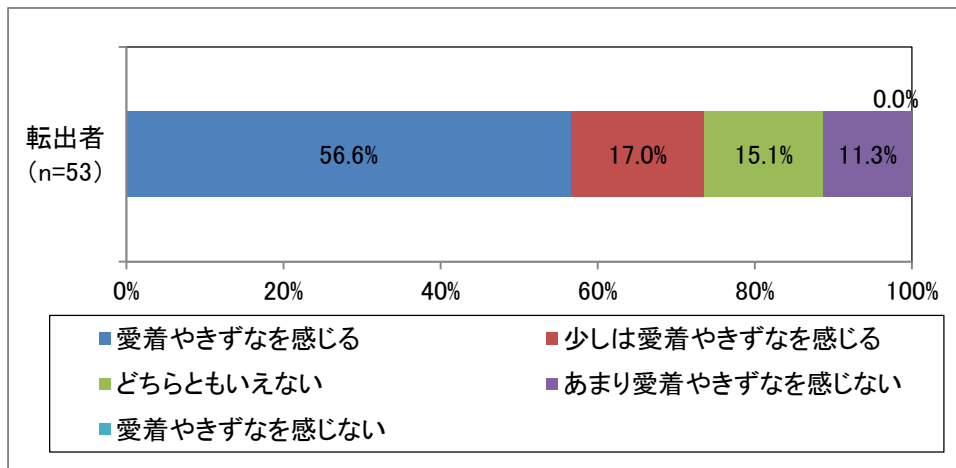


(3) 日向市へのイメージ ※問12

① 転出後も日向市に愛着やきずなを感じているか ※問12

・「あまり愛着やきずなを感じない」が 11.3%となっている。

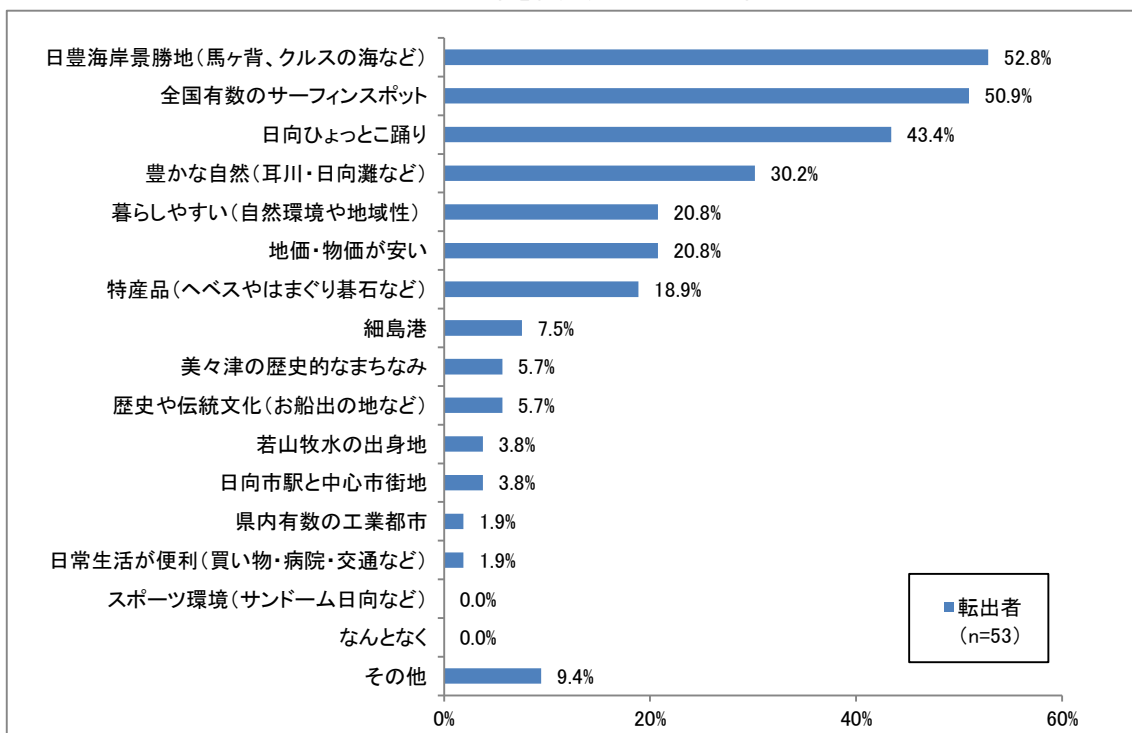
図3-3-1 日向市に愛着・きずなを感じているか



② 友人等に日向市を紹介するときに思い浮かぶもの ※問14

・上位3項目は「日豊海岸景勝地(馬ヶ背、クルスの海など)」(52.8%)、「全国有数のサーフィンスポット」(50.9%)、「日向ひょっとこ踊り」(43.4%)となっている。このように観光に関する項目が上位であり、「日向市が取り組むべき課題(問11)」(P37)で夫婦と子ども世帯が「観光産業の振興」(44.4%)と回答しているのと軌を一にしている。

図3-3-2 日向市を紹介するときに思い浮かぶもの

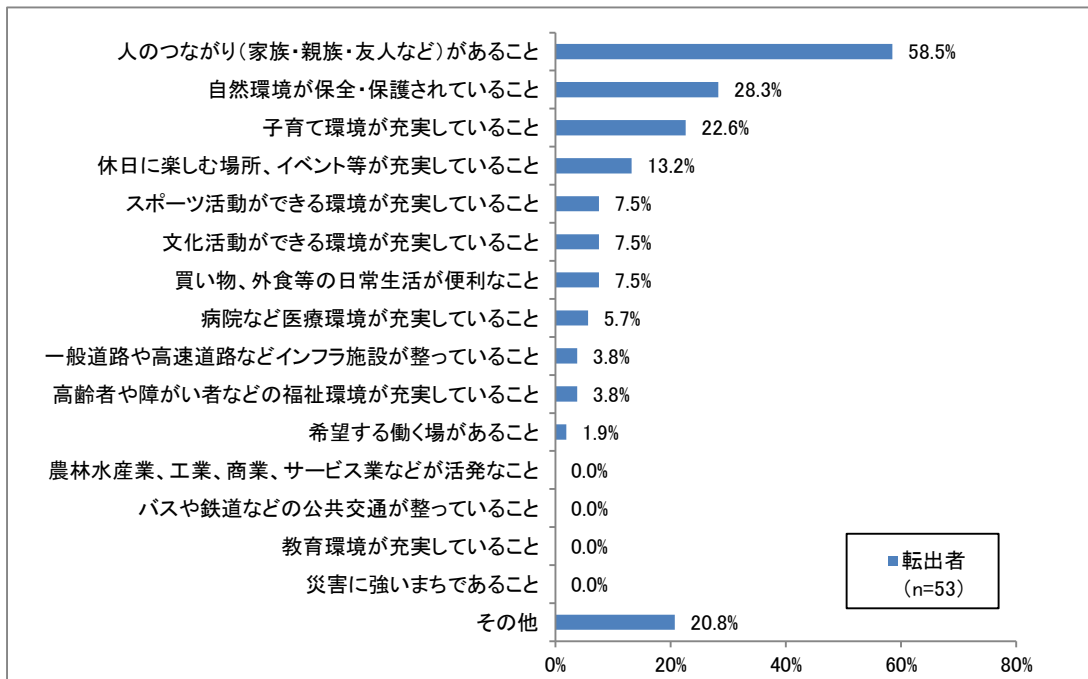


(4) 日向市の魅力 ※問19

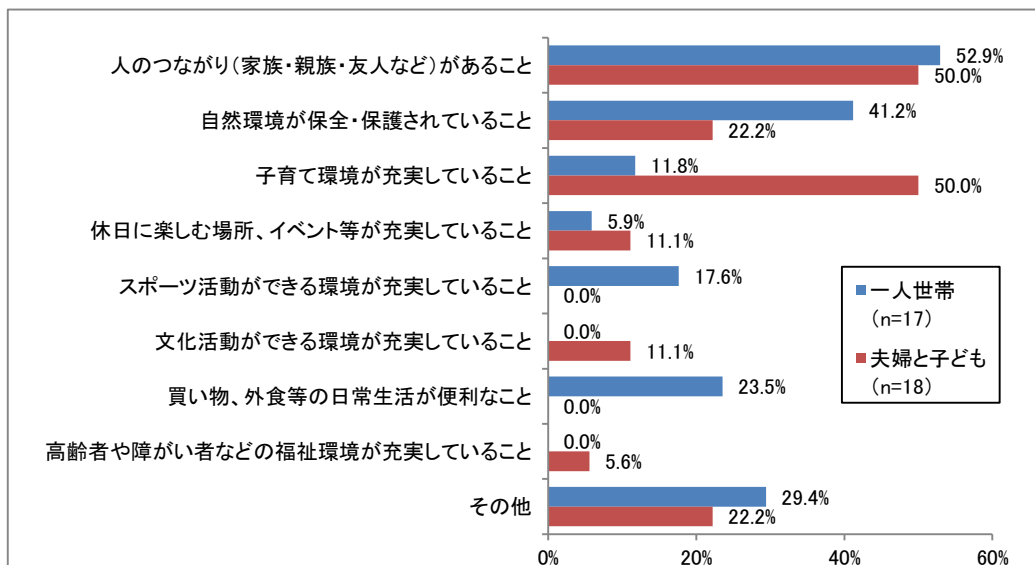
- 日向市に住んでいたときに魅力を感じていた上位3項目は、「人のつながり(家族・親族・友人など)があること」(58.5%)、「自然環境が保全・保護されていること」(28.3%)、「子育て環境が充実していること」(22.6%)となっている。このことは、男女別・年代別でも同じである。
- 家族構成別では、夫婦と子ども世帯が「子育て環境が充実していること」(50.0%)を魅力のトップに挙げている。

図3-4-1 日向市の魅力

<全体>



<家族構成別>



(5) 日向市に住んでいるときに不満だったこと ※問20

○男女別でみると、男性の上位3項目は「バスや鉄道などの公共交通が整備されていないこと」(45.0%)、「一般道路や高速道路が整備されていないこと」(35.0%)、「休日に楽しむ場所、イベント等が充実していないこと」(35.0%)となっている。

・女性の上位3項目は、「希望する働く場がないこと」(51.6%)、「一般道路や高速道路が整備されていないこと」(38.7%)、「病院など医療環境が充実していないこと」(35.5%)となっており、男性と違いがみられる。

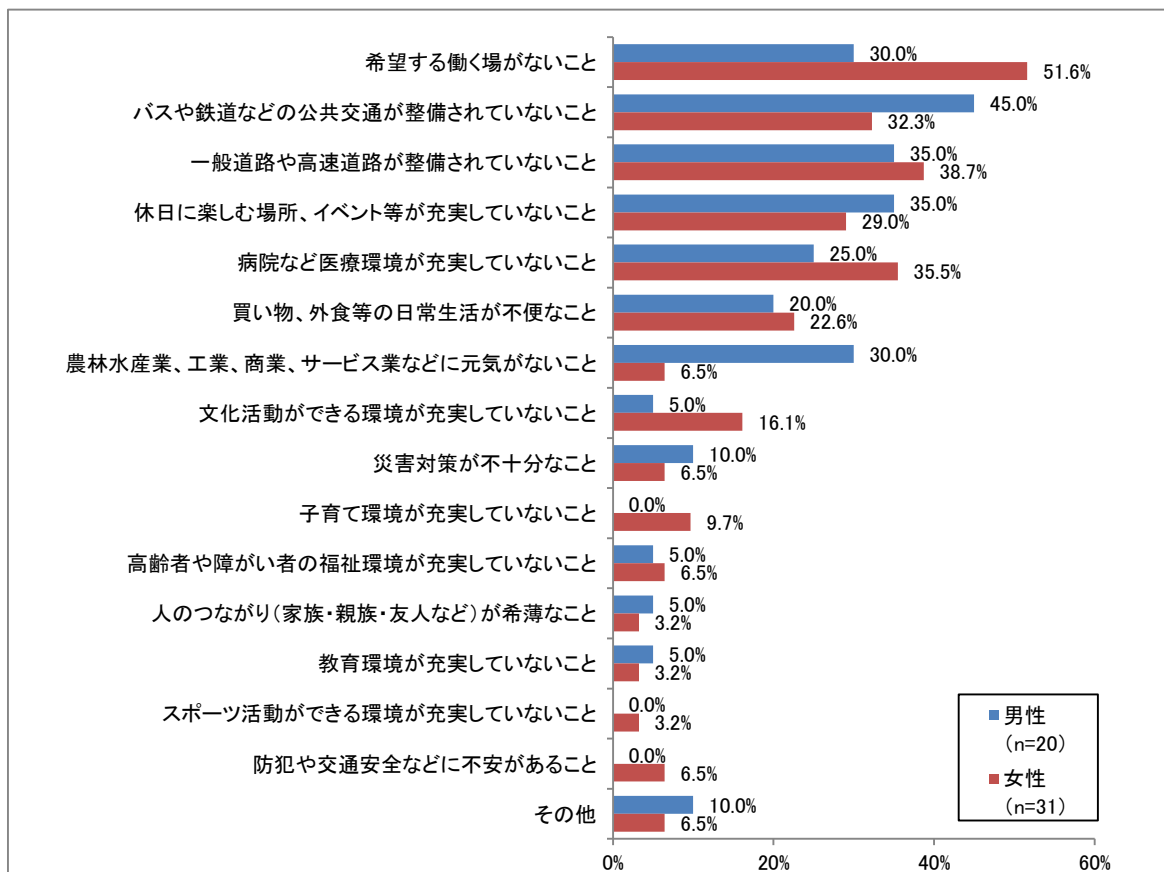
○家族構成別にみると、一人世帯の上位3項目は「希望する働く場がないこと」(52.9%)、「バスや鉄道などの公共交通が整備されていないこと」(41.2%)、「休日に楽しむ場所、イベント等が充実していないこと」(29.4%)となっている。

・夫婦と子ども世帯では、「休日に楽しむ場所、イベント等が充実していないこと」(50.0%)、「病院など医療環境が充実していないこと」(50.0%)、「一般道路や高速道路が整備されていないこと」(38.9%)となっている。

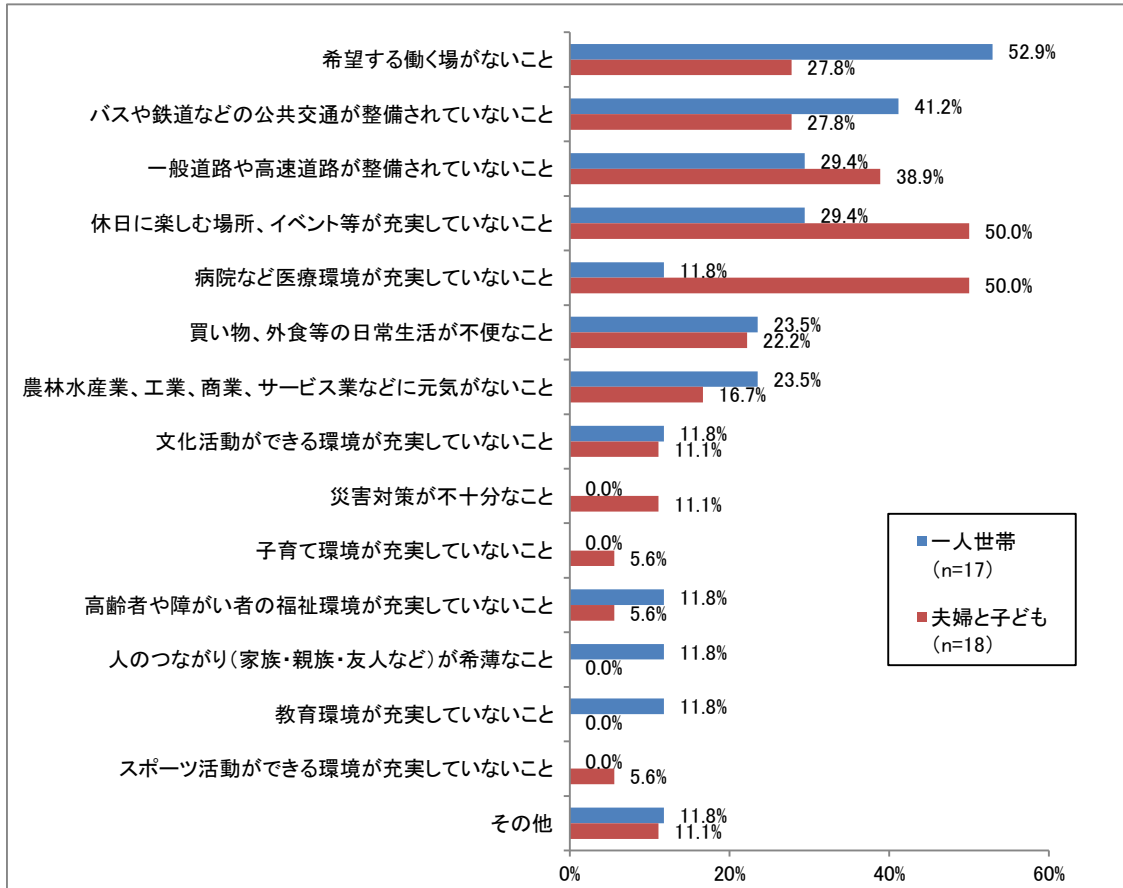
・両者の共通不満項目は、「休日に楽しむ場所、イベント等が充実していないこと」と推察する。

図3-5-1 日向市に住んでいたときの不満

<男女別>



<家族構成別>



II 転入者アンケート

1. 調査対象

この1年間に日向市に転入した20～59歳の人(住民基本台帳より抽出)…200人
→回答者47人(回収率23.5%)

2. 回答者の概要

(1) 性別・年代別

・40代が最も多い。(36.2%)

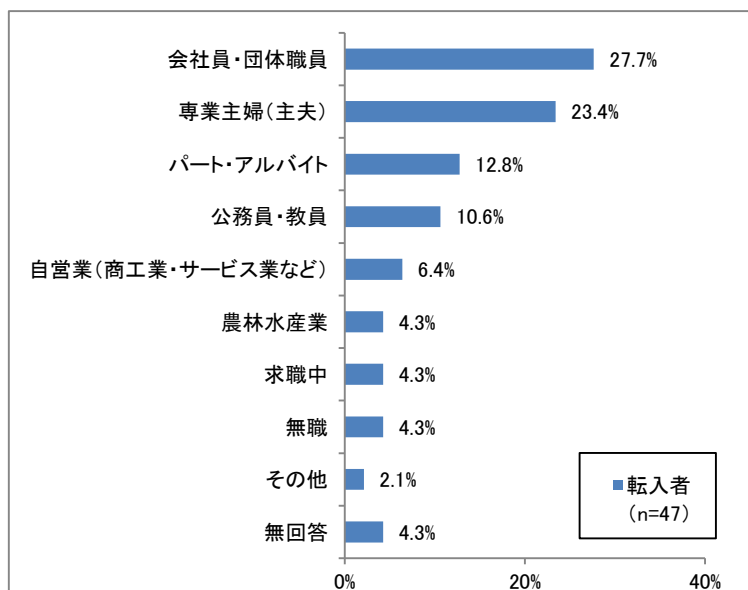
表2-1 性別・年代
(単位:人、%)

	男性	女性	男女計
29歳以下	3 14.3%	4 15.4%	7 14.9%
30～39歳	3 14.3%	8 30.8%	11 23.4%
40～49歳	8 38.1%	9 34.6%	17 36.2%
50～59歳	7 33.3%	5 19.2%	12 25.5%
年齢計	21 100.0%	26 100.0%	47 100.0%

(2) 職業別 ※問3

・会社員・団体職員は27.7%、専業主婦(夫)は23.4%で約半数である。

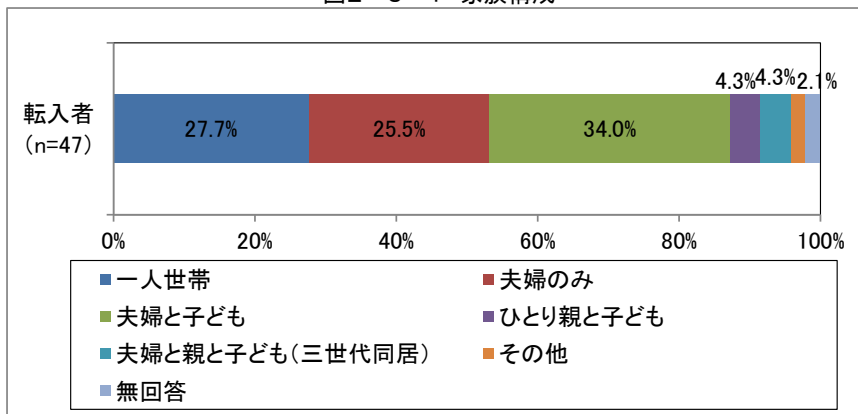
図2-2-1 職業



(3) 家族構成 ※問4

・「夫婦と子ども」世帯が 34.0% で最も多く、一人世帯は 27.7% となっている。

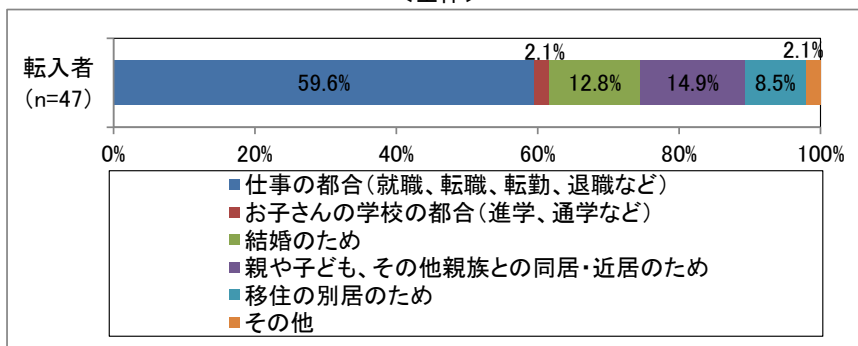
図2-3-1 家族構成



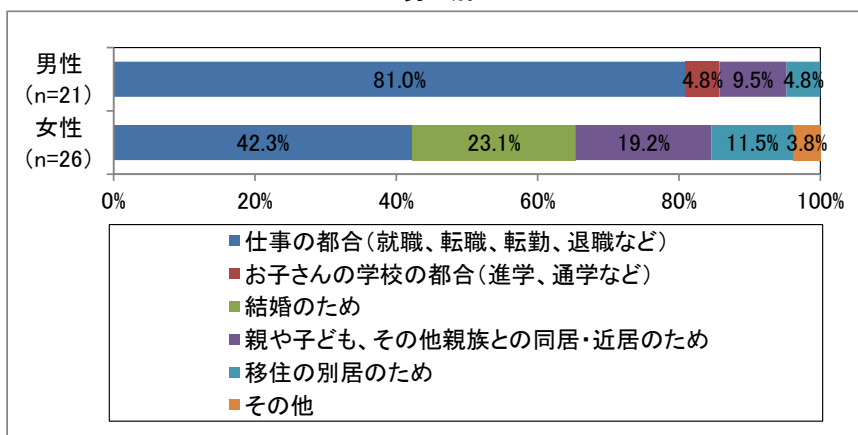
(4) 転入の理由 ※問6

・転入の理由は、「仕事の都合(就職、転職、転勤、退職など)」(59.6%)で最も多い。女性は「仕事の都合(就職、転職、転勤、退職など)」(42.3%)に次いで、「結婚のため」(23.1%)となっている。

図2-4-1 転入の理由
<全体>



<男女別>



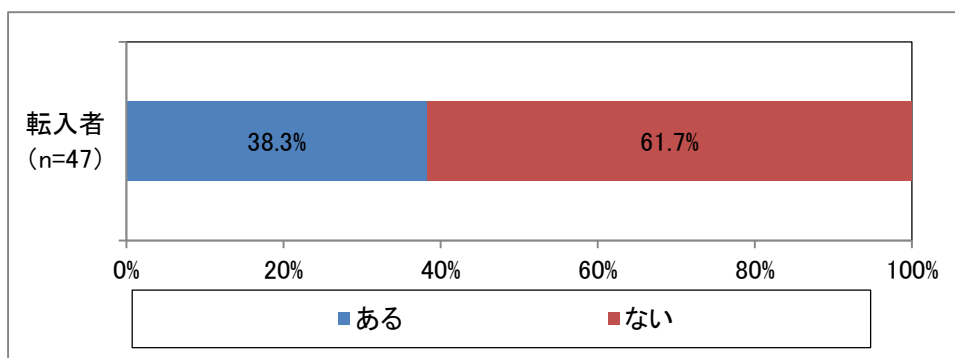
3. 調査結果

(1) 日向市への転入について

① 今回の転入前に日向市に住んでいたことがあるか ※問7

・日向市に初めて転入した人が 61.7% (29 人) となっている。

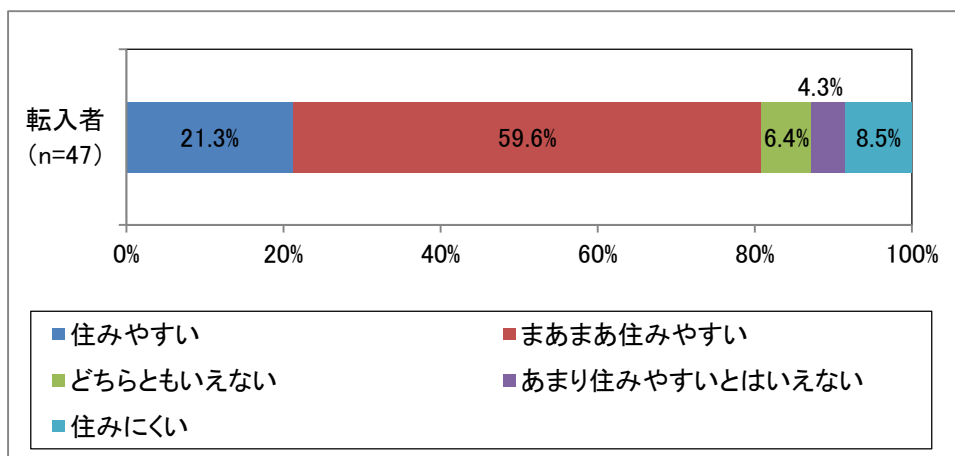
図3-1-1 日向市に以前住んだことがあるか



② 日向市は住みやすいまちかどうか ※問9

・「住みにくい」「あまり住みやすくない」を合わせると 12.8%になる。なお、「住みやすい」「まあまあ住みやすい」の合計は 80.9%である。

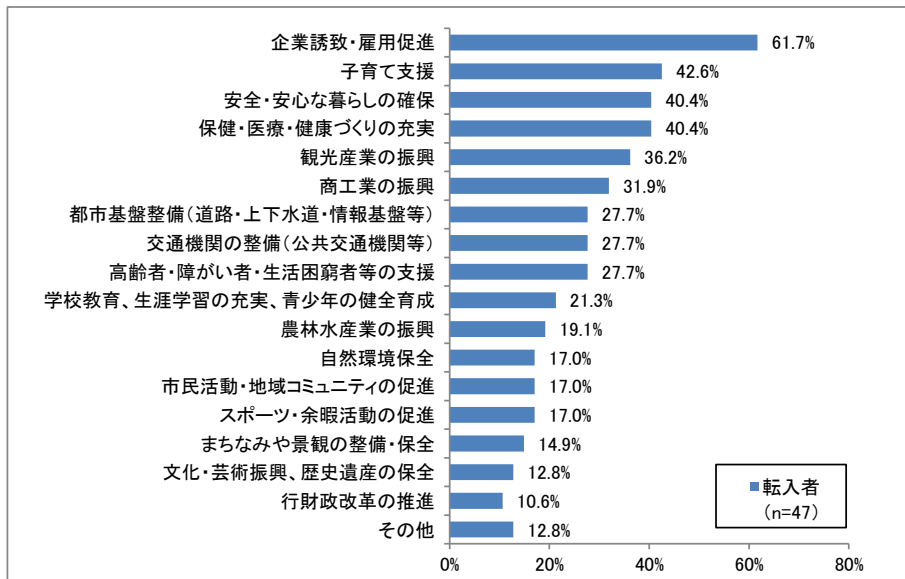
図3-1-2 日向市の住みやすさ



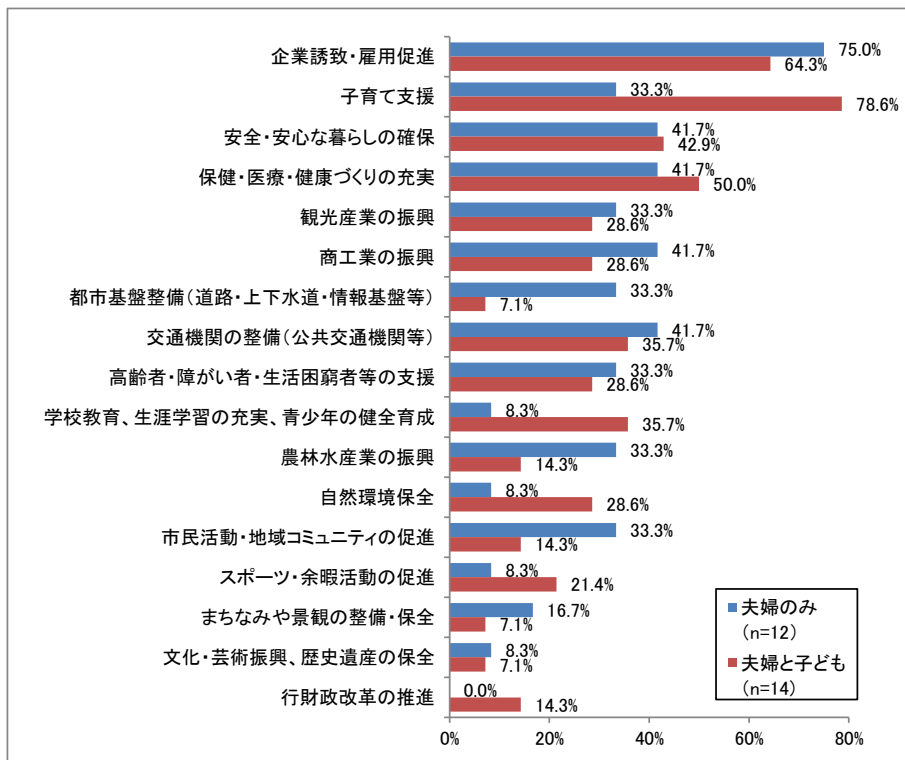
(2) 日向市が住みよいまちになるために取り組むべき課題 ※問10

- ・上位3項目は、「企業誘致・雇用促進」(61.7%)、「子育て支援」(42.6%)、「安全・安心な暮らしの確保」(40.4%)、「保健・医療・健康づくりの充実」(40.4%)となっている。
- ・このように上位3項目は転出者と同じとなっている。(P36)
- ・これを家族構成別で分析すると、「夫婦のみ」世帯は上記の全体とほぼ同じであるが、「夫婦と子ども世帯」では「子育て支援」(78.6%)がトップの項目となっている。

図3-2-1 日向市が取り組むべき課題
 <全体>



<家族構成別>

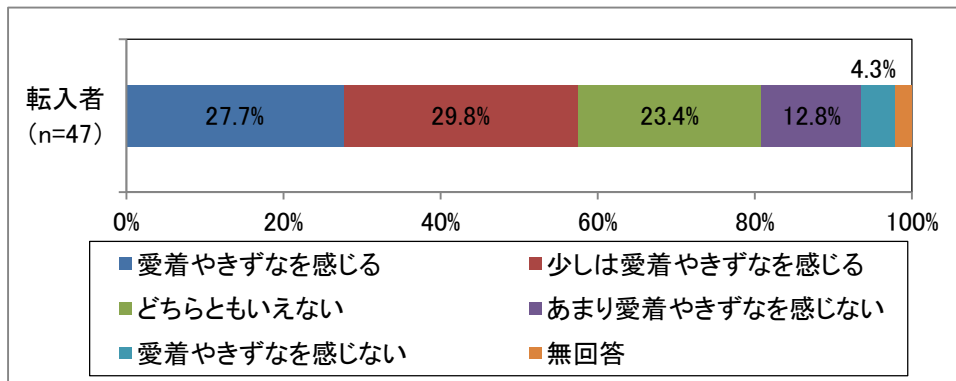


(3) 日向市のイメージ

① 日向市に愛着やきずなを感じるか。 ※問11

・転入して1年程度であるが、「愛着やきずなを感じる」「少しは愛着やきずなを感じる」の合計は57.5%となっている。一方「感じない」「あまり感じない」の合計は17.1%である。

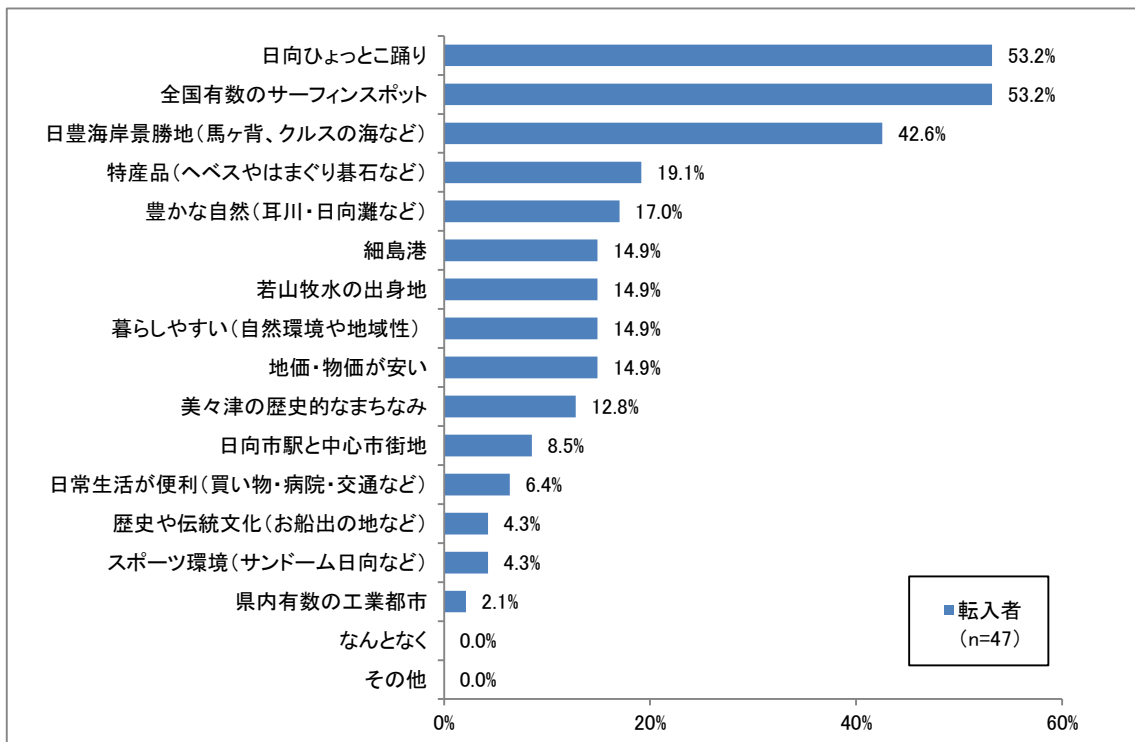
図3-3-1 日向市への愛着・きずな



② 人の日向市を紹介するときに思い浮かぶもの。 ※問13

・上位3項目は、「日向ひょっこ踊り」(53.2%)、「全国有数のサーフィンスポット」(53.2%)、「日豊海岸景勝地(馬ヶ背、クルスの海など)」(42.6%)となっており、転出者と同じである。
 なお、男女別でも上位3項目は一致している。

図3-3-2 日向市を紹介するときに思い浮かぶもの



(4) 日向市のまちづくりに期待すること ※問18

①全体

- ・上位3項目は、「希望する働く場があること」(36.2%)、「子育て環境が充実していること」(36.2%)、「買い物、外食等の日常生活が便利なこと」(31.9%)となっている。

②男女別

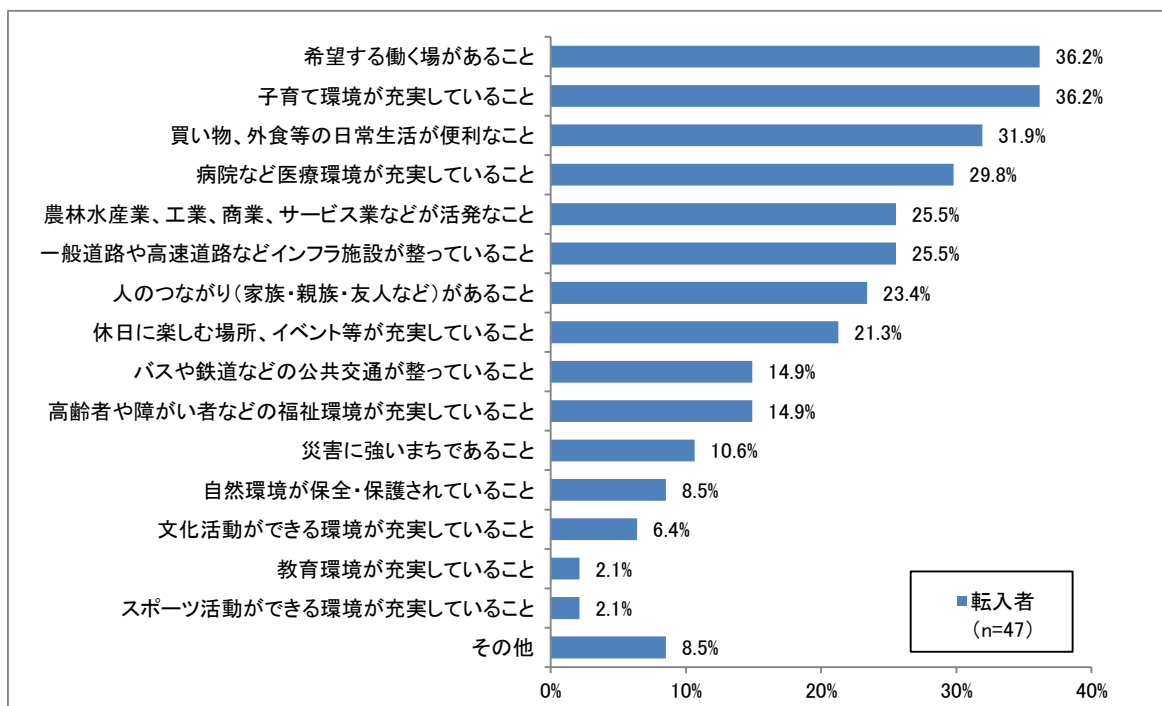
- ・男性の上位3項目は、「希望する働く場があること」(42.9%)、「農林水産業、工業、商業、サービス業などが活発なこと」(38.1%)、「一般道路や高速道路などインフラ施設が整っていること」(28.6%)となっている。
- ・女性の上位3項目は、「子育て環境が充実していること」(38.5%)、「病院など医療環境が充実していること」(38.5%)、「買い物、外食等の日常生活が便利なこと」(38.5%)となっている。
- ・このように男性と女性では、取り組むべき課題に相違がみられる。

③まとめ

- ・転入者の「期待」は、転出者が指摘した「取り組むべき課題」(P36)と上位3項目は概ね一致している。即ち、雇用の場の確保、子育て支援、公共交通などインフラの整備、買い物・外食等の日常生活が便利さ、医療環境の充実の集約される。

図3-4-1 日向市のまちづくりに期待すること

<全体>



<男女別>

